



技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター 春季号 <第59号> (平成16年3月15日発行)

巻頭言

故田中支部長に捧ぐ

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

「新橋駅には、このままで行けますか?」「あー、それでは品川で山手線に乗換えて下さい・・・」「あ、いやいやこれは新橋に行くよ!ここから25分で品川、品川からは都営地下鉄に繋がっていますから、それから四つ目が新橋駅です。ですからこのまま乗っていて結構ですよ・・・」最初の質問者は英国からの初老紳士、訊ねられて応答したのが私、3番目のフレーズが田中支部長(当時)で太字が英語でのトーク。平成13年8月、二人して上京し、羽田からの京急線車内での事。久しぶりの京急線の為、うっかりミスルした私の拙い英語を耳にされ、即座にその間違いに気付かれて、流暢な英語で正されたのですが、この時の「さすが!」のおもいは今でも脳裏に焼き付いています。

ハワイ沖、米国防水艦による宇和島水産高校練習船沈没事故の後、時を移さず本機関誌で、衝突までの軌跡を平易に解説された事は皆さんの記憶に新しいところです。

第30回日韓技術士会議・福岡大会では山口実行委員長と共に、そのお見事なリードが大成功を導かれましたね。

環境会計に関する勉強会でも、松浦、野見山、向江、松尾の各先生方と共に田中先生はいつも真摯に討議され、偶に出席した私にも穏和な眼差しで指導頂いた事も忘れません。

75才から自習され、自ら作成のソフトを用い、パワーポイントによる会議、講演での発表は、会員の励みと強い刺激にもなりました。その一方で先生は南京玉簾を始め、各種の大道芸でもセミプロ級のご活躍で、懇親会でもまた常にヒーローでしたね。

経営工学の技術士として工場経営診断・改善指導はもとより、環境カウンセラー、労働安全コンサルタントとしても活躍される傍ら、技術士会では支部長として、会員の為に尽くされ、特に支部から全国への発信にも強い意欲を燃やしておられましたね。先生と私が支部長と理事の正に車の両輪として、支え合い、むしろお導き頂き、目標に向けて進行中でしたね。

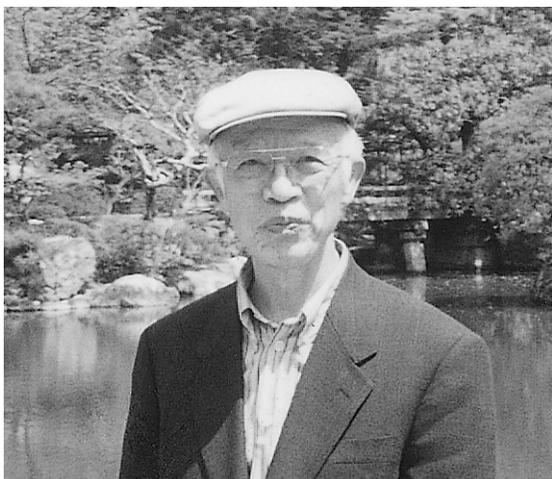
そうした矢先、7月のご入院。検査、治療、療養期間の延長と、関係者のおもいは気がかりから次第に心配へと推移しました。ご療養中の8月27日誕生日は病院から喜寿の祝福を受けられたお返しにと、丁度火星接近の日でもあり、スタッフの皆さんに、窓を通して科学者らしく平易に天体解説をされた事を、お見舞いの折に楽しく拝聴しました。秀逸の誉れ高い修猷館中学から、海軍兵学校、九大と進まれ、バイオを始めオールラウンドの技術者としての先生に崇敬の念を一層強く持った次第です。

昨年12月30日、御奥様からのお電話で病室に駆けつけましたが、そのわずか1時間後にご逝去の報に接し、ただ呆然の体でありました。

まだまだ遣り残された事や心残りは諸々のこと、特にご家庭にあっては御母上の介護の事など、察するに余りあります。ただ、先生のお人柄の良さ、中学や海兵での鍛練を経られた凜とした生活習慣はご長男とご長女のご家系にも受け継がれている事は違いありません。技術士会では1,400名の九州会員が今後一層結束して先生の偉業を引き継ぎ、更に発展させなければならないと痛感しています。

田中先生! 誠に無念この上なく痛恨の極みではありますが、心からご冥福をお祈り致します。そして私共を末永く見守って頂きますよう切にお願い申し上げます。 合 掌

特集・故田中支部長追悼



ありし日の田中穰治先生（御夫人提供）

弔 辞

田中穰治先生！

（社）日本技術士会を代表してあなたへの送別の言葉を申し上げねばならなくなったことを誠に残念に思います。

去る七月二十三日に、全国支部長会議で御一緒し、その後の懇親会でも出席者全員で楽しくお話できた事が最期になろうとは誰が想像できたでしょうか！

技術屋として、技術士としてのお仕事を全国視野で展開され、この十年余りは（社）日本技術士会の為にご尽力され、この間技術士全国大会、日韓技術士会議等でも数多くのお世話をなされ、平成十三年からは九州支部長として多大なご功績を残されました。

私が今年度から会長に就任しましてからは、非常に短い期間ではありましたが、田中先生が支部長として、ご意見・ご趣旨を説明なさる時に、自ら作成されたソフトを使ってパワーポイントにより懇切丁寧に解説される等、先生のご識見と情熱をひしひしと感じ取った事でした。

先生が会議等で強調しておられた三点「支部の活動状況をもっと広く会員に広報すべきだ・・・」「CPDを地方でもやり易くする方法の提案」及び「ITをもっと駆使した会員との双方向連絡や勉強会」につきましては、私も痛く共鳴し早速具体的実行動に移しつつあります。

また、私が特に提唱した“新時代に向けた「技術士及び日本技術士会のあり方」をビジョンとしてまとめるとともに、対外的な広報活動を活発化し、技術士の社会的役割と地位の向上に向けた活動を実施したい”との件につきましては、先生からも暖かくご同意を頂き、堅い握手をした事が忘れられません。

やがて十六年中にビジョンをまとめる折に先生が居られない事が、返す返すも残念でなりません。

昨年八月当初には検査入院と伺い、その後治療に専念されて早い快復のご予定と承り、安堵しておりましただけに、突然の訃報に接し、非常に驚愕しています。御遺族はじめ関係の皆様のご心中は如何ばかりかと、哀悼の念に耐えない心境で言葉もありませんでした。

仏教の經典にあっては「生・老・病・死」とは云うものの、私共の心根にてらしては、無常のおもい一方ならぬものをおぼえます。

先生にお世話になったご恩返しをするいとまも無く、誠に痛恨の極みではありますが、これまでの先生の技術士と技術士会への多大の御功績を称え、またこれを謝しながら、安らかなお眠りをなされませう、心からお祈り申し上げます。

田中穰治先生！ さようなら！

平成十六年一月三日

（社）日本技術士会 会長 清野 茂次

弔 辞

（社）日本技術士会九州支部長故田中穰治先生に、（社）日本技術士会九州支部並びに九州技術士センター会員千四百余名を代表いたし、謹んでお別れの挨拶をいたします。

我が艦戦闘続行可能——我が艦は、損傷したが戦闘続行は可能である——との言葉を電話で話され入院されたのは、旧年八月一日でした。先生の輝かしい青春時代に形成されたその海軍魂を感動しながらお聞きし、ご回復の早い事を確信した次第です。

しかし医師の治療、奥様の手厚い看護、会員全員の願わなしく、在任中のまま五ヶ月の療養生活を終えられました。

平成五年福岡に帰ってこられ、以来（社）日本技術士

会九州支部・同センターの活動に注力され、総務委員、総務委員長、副支部長、そして平成十三年五月からは、支部会員全員の推挙により(株)日本技術士会九州支部長に就任され、昨年五月からその第二期を続投中でした。支部長就任後は、本部事業委員他も委嘱され活躍されております。

わが国のエンジニアの今日と明日のありようをにらみつつ、九州支部・同センターの更なる充実と発展に多大の尽力をされました。私どもを取り巻く環境は日々変化しておりこれに適切に対応すべく、例えば IT 化の立上げ、CPD 立上げと定着化、若手層との対話等に、全力を注がれました。その成果は全国各支部の先駆け、モデルとなっております。技術士のグローバル化である APEC エンジニア制度も具体化し始めましたこの折でもあります。

故田中支部長のお疲れを察し、七月の支部幹部会で、支部長の一部業務振替を一同提案しましたところ、現状貫徹のご意志でありました。七月下旬暑いさなか東京神谷町駅付近でパソコンを抱えておられる田中先生にお会いし、思わず走りよりお持ちしたこともありました。温和な容貌のもとに、支部業務に全力投球されておりました。

他方多種多芸の先達でもあり、南京玉すだれは、イベントのごとに私どもの大いなる楽しみでした。日韓技術士会、中国三峡ダム研修会での船中、他での拍手喝采は、再現できぬ想いでとなりました。お酒がすき、談笑がすきでしたが、さすが入院前にはかなりセーブされていたことも痛々しい思い出です。

在任中のご逝去であり、志半ばとの思いもあるかもしれませんが、他方「我が艦戦闘続行可能」を最後まで堅持され完全燃焼されたこと、男子の本懐とも思う次第です。

故田中先生に続く私どもは、この想いを大事に致し、先生の志を継ぎ、九州支部・同センターをとって今日と明日の九州のそしてわが国のエンジニアのために、更なる努力をいたすことを誓います。

最後に故田中穰治先生の青春のシンボルである、同期の桜を心の中でうたいつつお別れといたします。

御冥福をお祈りいたします。

平成十六年一月三日

九州支部 副支部長 泉館 昭雄

故田中穰治支部長を偲ぶ

九州技術士センター会長 水上 信照

去る1月24日の故田中支部長を偲ぶ会では、本部の安藤副会長を始め、多数の支部会員の出席を得て、偲ぶ言葉、エピソードの紹介、「同期の桜」の合唱等、厳かななかにも、楽しい夕べでした。

田中さんが、九州支部にかかわられる様になられたのは、「技術士だより」に寄稿された、「品質管理と艦砲射撃」「日米企業のはざままで」という二つのエッセイにより、私が総務委員長に推薦させて頂いた事が、思い出されます。

田中さんは、十年前御母堂の介護のため、郷里のこの福岡に戻られ、奥様と共に並み並みならぬ孝養を盡くされていたと、聞いています。その御苦勞に対し、深く敬意を表します。

在任中は、第32回日韓技術士会議、支部業務の改革として、「IT を駆使した会員との双方向連絡や勉強会」「CPD の強化」「支部活動の広報強化等」、大変な御母堂の介護の中、御自分のライフワークとして、多大なご功績を残されました。

田中さんは、強固な意志の人でした。

総合技術監理部門の試験では、三年がかりで挑戦し、一昨年は一次試験を、昨年八月の二次筆記試験では、病院を抜け出して受験され、経営工学部門では全国で唯一人合格されました。病気のため、口頭試験を棄権されたことは、さぞかし残念であったと思います。まさに旧日本海軍の海兵魂の方だったと、深い感銘を受けたものです。

また田中さんは、心の豊かな人でした。

大道芸「南京玉すだれ」の妙技を、日韓技術士会議で披露され、萬雷の拍手を得られた事は、今も目に浮かんで参ります。

佛教に「俱会一処」と云う教えがあります。田中さんは、今はなつかしい御先祖様や、親しかった方々と、楽しい語らいの旅を続けておられる事でしょう。安らかにお眠り下さい。合掌。

特集・故田中支部長追悼

九州支部 副支部長 清水 博和

私が、田中穰治先生と初めてお会いしたのは、技術士試験に合格した平成9年、九州であった技術士全国大会の準備会議の時で、7年前になります。以来、総務委員長、副支部長、支部長におなりの先生から、絶えずご指導を頂きました。その間、海軍兵学校76期生の先生は、広島陸軍幼年学校48期生の私を、恰も海軍幼年校の後輩のように可愛がって下さいました。

5年前の1999年9月に第二部会長だった私が企画した【中国三峡ダム現地見学研修会】には積極的に参加されました。三峡登りの船中での、三峡に関する漢詩の講義、特に南京タマスダレの妙技は、印象深く忘れることができません。

平成13年の支部長選挙には、押されて支部長に立候補され、対抗馬の故久保田信一君を退りぞけられて、九州支部の禍根を断つことができました。顧みますと、このときの気苦労が、今回の病魔に取付かれた最大の原因ではないかと想像致しております。

支部長職2年有余の間に、支部組織の拡充、本部への支部の立場の認識改革、IT委員会の設立、等の従来からの懸案事項の解決に向けて大変な情熱を傾注されました。特にIT化に注ぐ情熱は、自ら、夜も眠らずに、パワーポイントを作成されて、役員会や、総会で説明されました。パワーポイントに入力する前の調査資料の整理と合わせると大変な体力、気力のご負担であったと偲ばれます。

このような激務のために、あれほどお好きな先生十八番の南京タマスダレを楽しむ機会が殆どなくなって終わりました。周りの皆さんを喜ばせる第一の楽しみを披露できない事が先生の心の中に、ストレスが堆積したのではないかと!! 周囲の私どもが、マジックを何故お願いしなかったかと、今悔やまれてなりません。

また、いろいろな緊張の連続が、支部長のみならず支部役員の中にも伝わり、先生のストレス解消まで気配りできなかったといえ言訳になりますが、どうかお許し下さい。心からお詫び申し上げます。

私は、パソコン操作歴は10年くらいですが、支部のパソコンに頼っていました。しかし、先生のIT

化への情熱に感化され、パソコンを購入して、インターネットやパワーポイントの手習いに取りかかりました。73才の年寄りですが、若い者には負けないと頑張っています。私の技術士第二次試験受験は帆足建八前副支部長の挑発に乗ったものですが、ITへの取り組みは、先生の挑発に踊らされたものです。深く感謝いたします。

また、総合技術監理部門への挑戦に際しては、私の提案により、青本の手引きとして副読本（黄本）の編集にお誘いし、先生と松尾先生、向江先生、清水と4名で苦勞をともにして仕上げました。私共のような建設部門の技術者にとっては、工場内の技術については不可解なことが多く、そのために自分の勉強もあってお誘いしたものです。今でも黄本はないかと言って来ます。これも一重に先生のご指導のお陰と感謝しています。

一年次には松尾先生、二年次には向江先生、昨年は田中先生と続けて合格されました。先生が病のために口頭試験を棄権されるに至った事は痛恨の極みであったと思います。私は平成14年度の試験で、5肢択一に21問正解の快挙でしたが、大濠公園池水浄化の論文の自信作が不合格となり、自信喪失してしまいました。しかし昨年挑戦した第一次試験がもしも合格でしたら、再度挑戦して先生の墓前に報告できたら幸せと思います。試験挑戦の緊張感で寿命をすり減らすかもしれません…。

今の私の楽しみは、先生から薦められた、環境カウンセラーの資格で《NPO法人環境カウンセラー九州実践家ネットワーク…略称Q-net》の登録を1月9日法務局に提出し、14日に登録を完了した事です。自然環境保全のためのボランティア活動の代表理事を務めています。環境問題は男のロマンです。先生もお誘いする計画でしたが、病気ご全快の暁にと遠慮していました。

思い出は尽きませんが、有益なご指導を賜りましたことを深く感謝申し上げますとともに、日本技術士会九州支部として、一番大切なお方を失ったと心から悲しんでいます。今後は、若い技術士の方々も大勢いますので、田中支部長の遺志を引き継いでやっていく事と信じています。

どうぞ、靖らかにお眠り下さい。

(04/01/11)

九州支部 副支部長／佐賀地区代表幹事

藤永 正弘

今、技術士だよりの投稿文を田中先生のお姿を思い浮かべながら書いております。田中先生との出会いはある意味で私の今後の生き方を大きく変革するものでした。

それは、先生の企画された IT 講習会がスタートでした。当時、私もパソコン難民の一人であったろうと今更ながら感じております。その講習会を契機としてパソコンを購入し、メールを始めましたが、一度に広がった情報に戸惑いつつも、視野の広がり、知識の拡大、それにつれて思考や行動が多様化するようになり、今、広い社会貢献をめざす強い意志が持てるようになっております。

平成13年、当支部が種々の問題を抱えていた時期に、救世主として、多くの会員に推挙され、支部長として、自らの理念と正義感と行動力で次々に難問を解決されるとともに、今後の支部活動の方向性を明確に示されてきました。また、九州支部のみならず日本技術士会全体の活性に寄与するという強い信念を持って、日本技術士会の改革に多くの提言をなされ、尽力され、今や、田中先生の提案が日本技術士会活動活性化の原点となっていると感じております。

私にとっては、この3年間、先生の近くで、燃えたいぎの情熱と内に秘められた強い意志を受けながら、副支部長として同じ目標の中にいたことは大変な誇りであり、私の大きな財産となりました。

終わりに佐賀地区代表の立場として、NPO 法人技術交流フォーラムの設立、あるいは佐賀地区 CPD 研修会等で多くのご支援、ご鞭撻を頂いたことも合わせて厚く御礼申し上げます。

九州支部 総務委員長 池田 義實

IT 化を推進しよう、この IT 推進委員会はインターネットによるテレビ会議にしようと、熱心に主張されていたのが、故田中支部長でした。技術屋らしく新しい技術に対してその活用に積極果敢、10歳ほど若い私達の方が、それはちょっと時期尚早ではないかと躊躇するようなことを、ごく当たり前のよ

うに提案されていました。

言うだけではなく、ご本人自ら身をもって実行されました。NTT でのパソコン通信の学習、またパワーポイントの習得など、本会の執行部の間では一番早かったのではないのでしょうか。ほんとに後輩の我々は頭が下がるばかりでした。

そして何より驚いたのは、「技術士だより」に寄稿なさっていた大砲の弾道計算を微分方程式を駆使して算出されていたことです。

私とて技術屋の端くれですが、学校卒業以来微分方程式など使用したことはなく、一目見ただけでグブアップという数式を、田中先生はごく自然に展開されていました。ほんとに柔軟で若々しい頭脳の持ち主でした。

かと思うと一方では、三峡ダム視察の時に船上の宴で披露された「南京玉すだれ」は絶品でした。文句なしに日中双方から大喝采を博しました。こういう芸能面でも一流でした。

今となっては遅いですが、九州支部に「南京玉すだれ」の後継者を育てて戴いていたらよかったですね。そういうと先生に言われそうです、“何処の部会、委員会にも属さない件を担当するのは総務委員だよ、君やりなさい”と。しかしこの芸は真似できません。

田中先生が総務委員長長 のときに、私は総務副委員長を仰せつかったのですが、先生は支部の行事の計画準備から連絡など何から何までお世話していらっしゃる、これは大変な職だと改めて驚きました。

そしてまもなく支部長に就任され、そのあとを引き継いで、私が総務委員長になりましたが、田中先生は九州支部代表となって、また一段と多忙の傍ら、未熟の私に総務はこういうことをするのだ、合同役員会、定時総会のシナリオはこうだと、率先指導いただきました。

まだまだ教えて戴くことは多かったです。本会の業務を離れてもう一度先生の多才な芸を拝見したかった、と思うのは私だけではないでしょう。

故田中穰治先生の奥様、節子夫人から、田中先生が御回復の後に活用されるおつもりで用意されていたパワーポイント・プロジェクターを、新品のまま九州支部に御寄贈くださいました。厚く御礼申し上げます。
(広報委)

特集・故田中支部長追悼

九州支部 第六部会長 松浦 茂雄

私と田中穰治先生との最初の出会いは、平成6年度に第19番目の技術士部門として環境部門が設置され、平成7年3月、日本技術士会九州支部の末席を占めて活動をはじめた時期に符合する。私事ながら義兄（妻の姉婿）が田中先生と九州大学農学部の同期で、鹿児島大学に在籍していた関係もあって、初対面から話が弾んで昔の思い出話などを伺った。その義兄も11月23日に他界し、この度の田中先生の訃報（12月30日）に殊更の感慨を覚えた次第である。

田中先生は平成10年度環境省・環境カウンセラー（事業者部門）に登録され、早速私どもの九州環境カウンセラー協会にご入会頂いた。当時先生は第六部会長として経営工学部門、情報工学部門そして環境部門を主査しておられたが、あるとき第六部会で講義をしてくれと依頼されたのが、現在脚光を浴び

ている中小企業向けの「環境活動評価プログラム」であった。このときから第六部会に参加させていただいたが、十分な経験・面識もないままで、田中先生が支部長に選出された後を受け、部会長を拝命する巡り合わせになってしまった。

協会活動として「環境活動評価プログラム（EA21）」のプロジェクトを立ち上げ、田中先生も率先してプロジェクトに参画され、PRTR法に関する卓越したテキストを編集されて、協会の定期総会の席上で熱弁を奮われたのが強く印象に残っている。今後大手企業のサプライチェーンのグリーン化に絡んで、PRTR法は中小企業の化学物質管理に重要な位置を占めることは必然であり、協会としてPRTR法の管理指針を纏める段取りを田中先生を煩わして進めようと計画していただけに、今回の訃報に接して返す返すも残念でならない。

故田中穰治支部長のご逝去を悼み、心から哀悼の意を表します。

故田中穰治先生を偲ぶ会

九州支部長故田中穰治先生を偲ぶ会が、奥様はじめご家族同席のもと、平成16年1月24日（土）16時40分から福岡商工会議所でしめやかに行われました。会に先立ち、出席者約90名全員の献花が行われました。本部からは安藤副会長が出席され、生前の田中支部長の功績と熱心に訴えておられた技術士会の活性化、IT推進、若手育成等の積極的な活動に対して感謝の弔辞が捧げられ、続いて、支部から小出理事、泉館副支部長、水上センター会長、松浦第六部会長、西井福岡青年技術士ネットワーク運営委員長の弔辞が捧げられました。故田中支部長の柔和な遺影の前で、生前のさまざまな思い出が語られた偲ぶ会となりました。（広報委）



寄稿に蘇る故田中支部長

—「技術士だより」から—

故田中支部長は、「技術士だより」を通じてさまざまな情報発信をされております。その中から4編を要旨抜粋で蘇っていただきます。（広報委）

◆日米企業のはざまで（第31号 H9.3.15）

学校を出てから廿年余り勤めていた会社が、業界の永年の構造不況で第一次石油ショックの頃にはどうにも立ち行かなくなり、縁あって米国に本社のある多国籍企業の日本法人に職を得ました。入社して驚いたことには技術・製造系の上司は全て外国人、日本の企業社会しか知らぬ私にとってはカルチャーショックの洗礼に戸惑うことばかりでした。

米国の企業では、地位に従って仕事量が著しく増えますが、勿論それに見合った給与は支払われます。日本の外資系企業も原則的には親会社と同じ風土を持っているので、仕事量は地位か給与のどちらかに比例するはずですが、どうも仕事量が給与の2乗か3乗に比例しているような気がしてなりません。14～15年も外資系企業で製造責任者をしていると、体力に自信があったはずの私も60才近くなると心身共にガタついて来ました。たまたま、親会社直轄の在

日の別企業で責任者を探している話を耳にしたので、仕事の内容を聞くと、米国始め世界各地にある同じ系統の多国籍企業から依頼を受けて、日本国内でこれ等の企業が必要とする部品や原料の調達先やOEM生産先の開発と、調達品の品質管理です。それなら、今まで製造部門で行っていた仕事の一部ではないか思い自ら出向を買ってでました。もっとも、これ等の仕事は工場では部下にまかせて自分はサインだけしかしていませんでしたが、クライアントに代り仕事をするのでは大違いであることに気付いた時はもう手遅れでした。

◆品質管理と艦砲射撃 (第36号 H.10.6.15)

ご存知のように産業界では製品のバラツキ σ を小さくことに日夜苦心していますが、帝国海軍では砲の命中率を上げるためつまり弾着のバラツキ r を小さくするのに、月々火水木金々で努力を積重ねました。両者の対象は全く違いますが、同じ正規分布曲線(=公算カーブ)を使って、バラツキを小さくすると言う点では同じことをしていたわけです。戦後、米国から品質管理の手法が導入されて、 3σ の概念が金科玉条のように持て囃されました。これで日本の工業製品の品質が著しく向上したのも事実です。しかし、海軍では戦前一少なくとも教官の生徒時代(第二次大戦の10年位前)一からこの考えはあった筈なのに、なぜ海軍部内にだけ留り産業界にまで波及しなかったのでしょうか。若し、当時から生産現場でバラツキ減少の論理的努力が行われておれば、戦前の日本製品の「安かろう悪かろう」の汚名も無いし、戦時中の航空機や兵器の生産も品質的に順調だったはずなのに。なぜ、日本人は米国人に教えてもらわねば工業製品の品質管理一つ出来なかったのか、産業人として何とも残念です。

◆名人芸と褒章 (第45号 H12.9.15)

名人芸を国が認めて表彰する褒章や人間国宝の制度があります。文化の日が近くなると、いろんな人達の名前が新聞に出ますが、同じ職人衆でも高級焼物、友禅の絵付など芸術的、非日常的な業務に携わる人達が多いようです。いくら名人芸といっても上記の清掃の小父さんや、リベット打ちの仲間が受賞することは絶対にありませんし、恐らく彼等も褒章等は夢にも考えたことはないでしょう。しかし、実際に世の中の役にたっているのは街の大工や左官、

機械工や溶接工であり、その中には焼物や染物で表彰されるような名人も沢山いるはずですよ。

政府は勲章さえ与えれば人々のモチベーションになり、文化や技術の進歩・発展に寄与できるとでも思っているのでしょうか。本当の進歩・発展は、仕事を天職と思っている名も知れない多くの技術者や名人芸の職人達によって支えられ、その精神は現在も受け継がれていると思います。

◆論理と倫理 (第49号 H13.6.15)

「倫理」とは、辞書では「道徳の規範原理」とありますが、世間ではその反対語の「不倫」の方がTVや小説で一人歩きをしています。それでは、近頃問われている技術の「倫理」をどう考えたら良いものでしょう。「技術の常識でやってはいけないことを、知りつつ行う」が「技術の不倫」ではないでしょうか。一般に倫理は、組織、国家、民族、主義等の論理(都合)の前には弱い物です。しかし、組織や企業或いは技術と非技術を問わず、次の3つは国や社会或いは時代が変わっても普遍的な倫理ではないかと思います。従来からの、①個人の生命や財産に対する責任、②社会や公衆に対する責任、のような属人的なもの他に、近頃では地球規模のワイドな見地から、③自然環境に対する責任、も意識せねばならない世の中です。

私ごとで恐縮ですが、第二次石油危機の際、東北地方の工場の責任者をしていました。毎日上昇を続ける石油価格と、製品不足を見越した顧客の注文に第一次石油危機に懲りた本社は、新たに造った500kl貯槽の満タンを命じてきました。満タンすれば工場所在の町の石油消費量の数日分に相当し、価格の高騰は必須です。社会的影響を考慮した私は社長に相談にゆきました。重役会議で孤立無援の私を支持してくれたのは社長一人です。結果として私の意見が通りました。自分の行為を信じながらも、石油不足が続く数千万の設備投資を無駄にして操業停止に追い込まれた場合、私を信じてくれた社長のことを考え、辞表提出の覚悟をしました。会社を辞めることによる家族への責任も頭の隅にありましたが、それより社会と会社に対する責任の相剋に押潰される思いでした。幸い、数日後に政府の備蓄放出で第二次石油危機は収束しましたが、今でも自分の行為の正当性を信じています。

これからの青年技術士の活動のあり方

福岡青年技術士ネットワーク運営委員長

西井 康浩（建設・北九州）

福岡青年技術士ネットワークは、若手技術士が業種の壁を超え、貴重な時間を有効に使って集い、自己研鑽と自己実現を図る（社）日本技術士会九州支部の活動とは異なる任意の集団である。活動歴は長く、その前身である YCE 福岡が平成 4 年 1 月に福岡地区で活動をはじめてから約 12 年の歴史を持つ。専用のメーリングリストに登録された約 100 名の会員は、福岡県に住まうか通勤する 50 歳までの技術士である。業種も一般企業、行政、学究と多岐にわたり、いずれも組織の中枢にあって働き盛りのポストに就いている。会員は、一技術士として人間交流や仲間同士の励ましあいを体験すべく、さらには高度な人脈や情報を求めて、二ヶ月に一度、福岡天神に集う。ここは、自分達が企画したテーマに沿って相互学習すると同時に、熱き議論を交わす場でもあり、また技術者としてのアイデンティティを再確認する場でもある。

われわれの活動は任意団体として自主運営されているが、九州支部との関係も深い。例えば、技術士会活動への関わりとして、九州支部や九州技術士センターの委員や幹事の兼務、技術士試験での試験監督員、受験講座の講師協力などがある。反対に、われわれの活動への支援として、定例会での技術講演に対する CPD の認証、外部講師を招聘して行う公開講演会への協力などがある。このように、福岡地区では若手技術士の活動に対して九州支部からは有形無形の支援を賜ると共に、組織としての自主性・独立性の認知を受けている。

信頼関係に基づく協調の姿勢は長い年月の中で相互に培われたものであるが、特に田中前支部長在任中には、若手技術士との連携が九州支部の主要施策の一つとして掲げられた。ここには、田中前支部長の若手技術士へ対する期待の大きさが感じられる。

ところで、最近、九州支部を介して本部・青年技術士懇談会および北海道技術士センター・青年技術

士協議会より、全国の青年技術士組織のネットワーク化を図る協力依頼があった。その一つの試みとして、今年度の全国大会から青年技術士の分科会と合同研修会を立ち上げようという打診を受けている。

時代は時として大きな偶然を生み出す。田中前支部長からの連携強化の依頼と全国の青年技術士組織のネットワーク化は、今まで九州支部と距離を置きながら自己完結型の自学習活動を実践して来たわれわれにとって、その方針を根底から見直す大きな課題となった。

その一つ目に、九州支部との連携を深めて行った場合、われわれの自主性と独立性をどこまで尊重していただけるかの問題がある。関与する会員みんなが知恵を出し合い、プラスの成果が得られる運営を伝統としてきた福岡青年技術士ネットワークのシステムを如何に継続させるか、大いなる議論を必要とする。

二つ目に、福岡地区以外の九州各地域の若手技術士とのネットワーク化がある。まずは、各地域の活動状況を調査する必要があるだろう。ここでは、われわれが置かれている立場と同様に、各地域の活動を尊重し、相互理解の上で九州全域の青年技術士ネットワークを構築することが重要になる。

三つ目に、組織形態の明確化がある。今のような任意の学習組織では会員相互の研修には最適であるが、会員が技術士として業務以外で地域社会に貢献するには機能的でない。今後は、事業化などで実績を持つ九州支部にノウハウを見習う必要を感じる。

“そっ啄同時”という禅の言葉がある。親鳥と雛鳥がタイミングを違わずに内外同時に殻を割るという意味である。福岡青年技術士ネットワークが時代の要請に応え、九州支部と共に真のパートナーシップを築く時期は近い。その誕生の瞬間まで、課題解決の努力を続けることが、田中前支部長からいただいた宿題に応えることに他ならないと考える。

平成15年度第5回理事会 概要報告

(社)日本技術士会 理事 小出 剛 (農業・福岡)

第5回理事会 (1月21日 13時~16時)

会議の冒頭に、会長指示の下、全員起立、故田中稯治九州支部長の霊に対し黙祷を捧げた。続いて私から、ご逝去に至るまでの経過と通夜、葬儀の報告、会長はじめ関係者からの御配慮に対し謝辞を述べ、1月24日の支部としての「故人を偲ぶ会」開催予定を告げた。

審議事項

I. 平成16年度事業計画・収支予算(案)

3月臨時総会への提出議題であるが、従来と比較して、事業計画では「一般事業」と「指定事業」の2区分から新たに「受託事業」を切り離し独立させ、3区分にした事、これに従い収支予算でも「一般会計」「CPD会計」「特別会計」の3区分に、新たに「受託会計」を設け、4会計の構成とした。

(1) 事業計画(案)

科学技術創造立国として各種の取り組みがなされているなか、技術士会はその設立目的の原点に立ち、来し方・行く末を総合的に検討し、新たに21世紀型の技術士及び日本技術士会のビジョン策定を本年度の重要施策としている。

①一般事業：技術士処遇向上、CPDの更なる推進、JABEE修了者を含む修習技術者への研鑽支援、国の行政施策への協力、海外との情報交換、技術士制度に関する調査研究等。

②受託事業：会の目的にかなう範囲で、従来からの国・地方自治体・関係機関等からの各種調査、審査を積極的に行う。

③指定事業：技術部門見直し等改正された省令及び告示に的確に従った試験・登録を行い、改正内容に関する普及・啓発を行う。さらに出題の正確性を期すための審査体制改善や択一式の正答公表実施のほか、試験のあり方を引き続き検討する。

(2) 収支予算(案)(総括表から)(千円)

①合計：収入 1,500,982、支出 1,421,144

②一般会計：収入 363,872、支出 319,615

③CPD会計：収入 20,600、支出 20,600

④受託会計：収入 51,340、支出 51,340

⑤特別会計：収入1,065,170、支出1,029,589

II. 臨時総会の日時・議題について

先日到着の会員宛案内状の通り。3月10日(水)15時~、虎ノ門パストラルで開催。

報告事項

I. 科学技術・学術審議会技術士分科会報告

15年度試験実施結果と16年度実施大綱が決定の由。特に日本技術士会特別委員会での検討結果報告がなされ、会長から「一次試験問題が学卒直後に有利に働いており、意欲と経験のある社会人に門戸を広げるような改善を」と。また出題の評価は複数の専門家にさせる等、理事会意見も踏まえた活発な議論がなされた由。

なお、2次試験についても今後更に検討して欲しいとの強い要望で閉会の由。

II. 平成16年度技術士試験日程等の報告

① 一次試験 10月11日(月)

② 二次試験 8月7日(土) 総合・筆記

③ 二次試験 8月8日(日) 総合以外・筆記

④ 出題の正確性、妥当性チェックの為の審査委員を技術士会専務理事が推薦する。

⑤ 一次、二次共全受験者に対し合格発表後に成績を通知する。また、全ての択一問題の正答を公表する。

III. 名誉会員推薦制度及び会長表彰制度改正

① 名誉会員推薦制度改正案について

名誉会員数の会員に占める割合が他組織に比較して非常に大となる事から、昨年度理事会で改正の検討を承認していたが、今回の提出案は理事会討議と基本事項で異なる部分がある事から、倫理委員会での再検討となった。

② 会長表彰制度改正案について

名実共に更に格調高い表彰制度にする為、功労賞、技術賞、奨励賞等を検討している。

①②共に、中間報告の段階で審議ではない。

その他省略。

第4回全国支部長会議報告

九州支部支部長 泉館 昭雄（電気電子・北九州）

日時；平成16年2月6日。13時30分～17時。

於いて；東京，茸手第2ビル5-A、

出席者；清野会長、安藤・小針・鎌田各副会長、竹下専務理事、畠山常務理事、大谷試験センター長、大島（北海道）、中山（北陸）、辻（中部）、加藤（近畿）、牧山（中四国）、吉川（東北）各支部長、泉館（九州）副支部長（当時）、他関係者。

はじめに清野会長より、以下の挨拶があった。

「技術士会の最重要テーマは、ビジョンづくりであり急いでいる。あわせて支部もそのあり方を検討していただきたい。それと各理事の立候補宣言にもある会員増強である。支部長会議もアクションにつなげる場としたい」

中山北陸支部長（幹事支部）司会で議事に入った。本部・支部活動報告；本部からは、「技術士及び日本技術士会のビジョン」策定に注力していること、平成16年度事業計画・収支予算で受託業務を独立事業としたこと。名誉会員制度及び会長表彰制度中間報告。九州支部は、故田中支部長逝去に伴う諸事状況とお礼。1月24日支部 CPD、全国大会準備委員会立上げを報告。他各支部報告。中四国支部は、「第9回西日本技術士研究・業績発表年次大会講演集」作成配布。

今後の行事予定；平成16年度地域産学官合同セミナー開催支部は、九州支部、北陸支部、中四国支部に決定（順送り）。各支部より、一次、二次合格者の歓迎会、研修会日程報告。本部、各支部とも一次合格者研修、歓迎会に重点をシフトしている。日韓技術士会議日程報告—10月26日、米子市。平成17年全国大会（九州）予定期日10月19日、場所は福岡・百道浜のシーホーク。

業務開拓；東北支部は、県から業務受託、契約者は(株)日本技術士会会長。本部から中国に於ける技術士

後継支部長決定のお知らせ

故田中穰治支部長ご逝去に伴い、1月24日に開催された九州支部常任幹事会で、支部会則に則り、後任支部長選出のため、2月10日締切りで立候補者を募り、2月21日に臨時総会を開催する。ただし立候補者が一人の場合は、無投票当選とし、臨時総会は取りやめると決定しましたが、2月10日に締切りの結果、立候補者は泉館昭雄先生お一人でした。それで、臨時総会開催は取りやめとなり、泉館昭雄先生（電気電子、北九州）が後継支部長に選出されました。

なお、任期は前任者の残任期間で、平成17年定時総会までです。

〔広報委〕

業務促進に関する基本方針説明。九州支部 K-RIP 報告。

継続教育；宮城県では、県公共事業指名基準厳密運用方向で技術士不足となる。北海道支部は、e-ラーニング準備に着手。

技術士試験；九州支部は、一次受験者の地域分布を考慮し九州南部地域に会場新設私案説明—会長より早急に詰めたいとの意見あり。本部から、平成16年度技術士試験日程、合格者データの取り扱いについて説明（本部も知恵をだしている）。

役員選挙制度；各支部意見交換。九州支部案も説明。支部によりばらついている。政策委員会で、取りまとめ中。

支部運営について；九州支部運営体制報告。各支部により、組織は異なる模様。中四国支部からの問題提起は、支部会員増加率より、県技術士会增加率が大幅に大きい。NPOを含め、日本技術士会とこれらの関係とのありようの検討が必要。複数支部より支部活動費支援要請要求があり、事業委員会の CPD・部会支援制度との整合性を確認することとした。

会員増強；本部から意識的増加の必要性の説明あり。組織率50%を目指す案もある。技術士を活用している団体での、技術士の入会説得の示唆があった。

〔纏め〕全体として前向きの雰囲気は濃く、内容がますます濃くなっている事を実感した。前回提案した CPD 実績の活用法も検討されている。支部会員の意見・提案は支部として纏めこの会議を活用して、理事会等常設機関につなぎ具現する方法も考えられる。技術士会、支部活性化にむけての会員諸氏の提案・意見を切望する次第である。

会議のはじめに、全員で故田中支部長の御冥福を祈り黙祷を捧げたことを申し添える。

今後技術士の進むべき方向に関する考え方

(社)日本技術士会 会長 清野 茂次〔講述〕

平成15年11月15日10時から、松山市総合コミュニティセンターで、第9回西日本技術士研究・業績発表年次大会が開催された。これは、その開会行事で清野会長が行われた開会挨拶の講演要旨である。

————— ◇ —————

1)「これから我々技術士はどういう方向に歩いていくか」私の考えを述べさせていただくと共に、皆さんの意見を伺って、社会に貢献できる技術士会を目指して、会の運営・社会への貢献・社会へ情報発信をする日本技術士会にしたい。

2) 日本が置かれている社会環境は順風ではない。

IMDの調査によると我国の世界競争力は1991～1993年の間は1位であったが、その後次第に下落して行き、2002年は先進国47ヶ国中30位になった。様々な項目について分析した結果の総合評価である。

2003年は人口2000万人以上の先進国で集計した結果で、30ヶ国中11位であり、前年と同じ位置にある。日本の上に、シンガポールや韓国などアジアの国が入っている。

しかしまだ日本は様々な意味で高い競争力を持っている。特に科学技術競争力は米国に次いで2位であるが総合的なシステムとして十分機能していないことが、全体としての競争力を低下させている。特にグローバル化の中での改革が遅れている。

科学技術創造立国として技術士が世界に貢献できる国になる必要がある。

3) 技術士が誕生して、50年近い歴史をもつが、社会の中で十分認知されているとは言えない。医師・弁護士・公認会計士等と比較してはなほ寂しい状況にある。

しかし我々が役割を果たした結果、我国の20世紀後半の隆盛があり、それを誇りに思う。しかし技術者はそれに対して十分な評価がなされなくても自己満足の感がする。社会と技術士の連携がより必要である。

4) 技術士法が2000年に改正された。それまではコンサルタント業を行なう職種の資格という考え方の強い技術士であったが、新しい技術士法での技術士はもっと広い職域での活動を目指している。

日本の技術者は240万人いるが、技術士は僅か5万余人である。外国の例を見ると、米国40万人、カナダ16万人、英国20万人、オーストラリア7万人であり、人口比から言うと日本は非常に少ない、少数価値としての職業的特権を持っているかという実態はそうでもない。

もっと広い意味をもった技術士にするのが新しい法律の目的であり、技術士の数がもっと増えねばならない。これは技術士のレベルを下げることではない。

官公庁でも大学でも、また企業でも、そしてコンサルタントでも専門の仕事をする人で、リーダー的な役割を果たす者は、みんな技術士という形にした。これが新しい技術士法の基本的な考えである。

5) 今年から一次試験、二次試験を受けないと技術士の資格を得られなくなった。

しかしその運営には大きな問題がある。その第一は技術士への入り口である一次試験の門を狭くしすぎていることである。

昨年度の合格率は適正・専門・基礎の受験者で8%台、受験者数の最も多い建設部門では5%弱である。一次試験で合格者が一桁というのは出題に問題がある。受験した人が悪いのではない。このような試験運営をしていたら技術士法改正の本質を間違えるおそれがあるので、早急に改革するように会として特別委員会で検討している。

6) 日本の技術士は国際的な役割から見ても、技術者240万人の1割が技術士であってよい。少なくとも20万人が技術士になって、例えば県でも技術系課長以上はみんな技術士、技術士でない課長になれないという形になって欲しい。民間でも技術系リーダーは技術士ということに、コンサルタント職の人はその立場上、特に所定のCPDで研鑽して質の高い技術士となる責任をもつ。日本技術士会はその方向に向け行動したいと考えている。

7) 今週水曜日(11月12日)の理事会で「技術士及び日本技術士会」のビジョン作成を決めた。

ビジョン作りを理事会で決議して策定する意味は、全理事が一丸となって進む事が大切だと考えている

為である。

中身に関しては先ほど話した事の他、仲間内だけの仲良しクラブになるのではなく、情報を社会に発信し社会からの批判と支持を得る事、外に向けて技術士活動をより積極的に進める考えである。

皆さんのご理解と支援をお願いします。

8) 大学の教育国際競争力は低い状況だ。研究成果が悪いという意味ではなく、学生を教育して新しい姿に仕上げる意味では低く、東大でも101番目である。

JABEE「日本技術者教育認定機構」が出来て、大学へ認定プログラムを出している。今年度末には学科単位で100学科くらいが認定を受ける見込みである。

JABEE 認定プログラムを卒業すると技術士補の試験免除をされる事が年末までに決定される。(文科省は現在パブリックコメント作成中)

JABEE 認定の動きは技術士一次試験受験免除と

の関連で技術士への認識も変わってくる。

9) 現在日本技術士会正会員は10553名(9月末現在)で登録者約5万4千人に対して組織率は20%しかない。

これは大きな問題であり、会員になっても何のメリットもないとの見方をしている技術士も多い。

しかし日本技術士会は活発な活動をしており、それぞれの技術士にもメリットがあり社会貢献もしている。これらの動きを理解してもらい、組織率を50%まで持っていききたい、そうなれば活動形態も大幅に変わる。

10) 中四国支部も、四国の技術士が増加して「四国支部」に発展させて欲しい。地域活動をより活発化されることを願っている。

以上様々な問題解決に向け誠心誠意努力しますので、よろしくご支援をお願いします。

(文責 是永北九州代表幹事)

行事・会合報告

平成15年度 第4/4期 九州支部CPD研修会

九州支部 CPD副委員長 松原 好直(水道・北九州)

1月24日(土)福岡商工会議所で、九州支部主催によるCPD研修会が実施されました。九州支部CPD研修は、A部門、土曜集中(6時間)、4回/年という、参加しやすさと効率性を考慮した方法により実施中で、今回は、次の4題で行いました。

- ①有明海の再生を目指して(有明海研究センターとNPO法人の設立に向けて)荒牧軍治氏(佐賀大学・理工学部教授:前副学長)【A-5】
- ②地域起こし・エコおよび今後の展望(市長からプロ技術者へ、大いなるメッセージ)江口隆一氏(水俣市長)[アシスタント:石丸晃氏(水俣市商工観光課長)]【A-6】
- ③業務の改善(活性化のヒント)笠木直行氏(日本技術士会・会員、労働安全コンサルタント)【A-8】
- ④技術士とわたくし 古川博氏(日本技術士会・会員、古川建築研究所・所長)【A-11】

今回の支部主催CPD研修会も盛況で、出席者数も約150名と多数の参加となりました。

【議題①】有明海は「宝の海」で、その宝とは、豊かで多様な海産物(貝類、シバエビ、クツゾコ等)と、貴重性がある生物(ムツゴロウ、カニ等)で、いずれも豊富であった。その有明海が病気にかかっている。例えば、海産物の漁獲高がノリ単作になっている半面、アサリは1/10、アゲマキも激減。その要因として、捕りすぎも一因、水温と水位が上昇、潮位差が減少、流速の変化、底質の細粒化 透明度が上昇(有明海は元々泥の海)等を、具体的事例を挙げてのお話でした。

また、プランクトン発生メカニズムや、ノリに影響する環境要素“生長=流速×栄養塩濃度、アカグサレ病、リゾソニア、海水の比重、水温”さらに、諫早湾の開門調査についても持論を述べられました。

最後に、NPO「有明海ぐるりんネット」活動、有

明海の豊かさ、歴史～文化をアピールされ、沿岸域のネットワーク化、有明海研究所の設立を提案、持論の科学、生物、物理にさらに社会経済まで含めた複雑系を解く微分方程式をつくりたい旨を述べられました。

【議題②】 水俣市はチッソのため急速に発展したが、水俣病により多大な損害をこうむり差別やイジメも受けた。しかし、それを教訓に環境や健康の大切さを重視するようになり、住民の意識が高揚、ゴミの23分別収集（現在は21分別）等に結びつき、それらは新しい観光資源となった。

これらを背景に、水俣市エコタウン事業を立ち上げた。この事業は、家電リサイクル、びんリユース・リサイクル、使用済みオイルリサイクル、し尿を原料とした肥料製造、タイヤリサイクル等で、その事業が環境保全に繋がり、経済的にもプラスに転換された。また、㈱みなまた環境テクノセンターを設立し、産学連携の拠点となったことなどを具体的に話されました。

一方、自立環境型地域経済システムという新しい概念を打ち出され、平成14年2月に市長（37歳）に就任されたときの苦労話。昨年7月の水俣大洪水。これらを経営者として自覚すべきことを例えに、方向性を示すこと、責任をとることで、意思決定が速くなり、職員全員の頑張りで乗り切れたことをのべられました。最後に、これからの行政はアイデアが大事であることで結ばれました。

【議題③】 ご自身の豊富なご経験をベースに、仕事の進め方や会議のやり方におけるポイントを32画面（パワーポイント）により、わかり易くご説明されました。その中で、「0070」＝遅れ0が大事で、評価点は高いのに越したことはないが、最低キープラインは、70点の出来でよいのでは！の持論を述べられました。

【議題④】 ご自身が58歳で独立、個人事務所を設立してから今日までの5年間の活動を、CM、ISOコンサル、工学鑑定、工事監査等についてお話され、また、韓国との交流を深めていきたい旨のご講演をされました。

また、当日は特別に、日本技術士会副会長・安藤正博氏の『技術士の知名度を向上する一助としての広報活動』についてのご講演がありました。

内容は、最近の技術士会的情勢および取組み、今



江口水俣市長（左は石丸商工観光課長）



盛況の研修会

後の方向性、さらに発展させるために日本技術士会への参加の呼びかけについて、私見を含めてのお話でした。

【お知らせ】 九州支部主催 CPD 研修会の H16 年度の開催予定日は、議題 A 部門を中心に、4 月 24 日（土）、7 月 24 日（土）、10 月 23 日（土）、平成 17 年 1 月 29 日（土）です。（CPD 開催日は原則として、4 半期毎、第 1 月の第 4 土曜日）

講師のご推薦を募集していますので、支部までご連絡ください。

☆平成16年度技術士第二次試験☆

受付：平成16年4月1日～4月12日（土曜、日曜を除き、締め切り12日消印まで有効）

試験：総合技術監理部門・平成16年8月7日（土）
その他の技術部門・平成16年8月8日（日）

部会報告

第三部会技術講演会

科学・技術と社会とのかかわり

第三部会長 和田 洋二（金属・北九州）

科学・技術の進歩と発展は私たちの生活に大きな影響を与えてきた。このことは、おそらく共通の理解としてあると思います。ただ、私たちに普遍的に幸福をもたらしたのか？ということについては、見解が分かれるところでしょう。

私は機会があって、生命体工学系大学院の学生を対象とした「社会技術論」の講座を受け持っています。講座は、今年で三回目を数え、夏休み直前の大学院生約60名を相手に、年に二日間終日の集中講義という形態で行い、講座の中で、科学・技術の成り立ちと変質、科学・技術と安全性などの観点から標題のテーマへアプローチするとともに、企業運営の仕組みについてもお話しています。30歳も年かさの違う若い学生との講座は、私の脳にとって刺激的で、日常の仕事を忘れて没頭できる快感があり、また、学生のレポートを読み、彼らの考え方を知ることが出来るのも楽しみの一つです。

会員の皆様も科学・技術の成り立ち、コペルニクスやガリレオ、あるいは、ニュートンなどの時代に想いをはせてみてはいかがでしょうか？

さて、第三部会では、去る10月4日（土）、定例技術講演会を開催し、二つのご講演をお聴きしました。演題に関心の深い会員からは、「当日都合が悪いが、レジメをいただきたい」との要望があり、後日お送りした。

(1) 題目「色素増感太陽電池の最新動向」:

小柳嗣雄 氏（総合技術監理・化学部門）

講演者の勤務する会社は、微粒子製造の専門メーカーで、この微粒子製造技術を太陽電池に応用する技術開発に取り組んでおられる。つまり結晶性酸化チタン微粒子等を用いた色素増感技術を、太陽電池分野に実用化しようとするもので、実現すれば、理論エネルギー変換効率19%という画期的なものとなる可能性があり、発電コストの点で、結晶シリコン応用太陽電池に比べて実用化メリットが大きい技術分野とのことだった。なお、現在の太陽電池は、90%

が結晶シリコンを用いたもので、シャープが世界シェアの25%を占める。

化石エネルギーに替わる新エネルギー分野の発電については、「政府見通しのとおりを実現するとは考えられない」との、同じく新エネルギー分野に取り組んでいる出席者の意見も出され、活発な議論がなされた。

(2) 題目「電子ビーム加工の基礎とその応用」:

皆良田征夫 氏（金属部門）

講演者の勤める会社の社名の由来が南海の小島（沖縄県北大東村）にあり、会社はかつてわが国唯一のリン鉱石産出地で採掘事業にあたっていたと紹介があり、出席者全員「そういうことだったのか」と納得。

講演は、“機械事業”の一つとして取り組んでおられる“電子ビーム受託精密加工”に関するもので、半導体製造装置分野を始め多岐にわたる事業を営んでいるとのこと。ただ、受託加工という事業の性格上、お客様の秘密保持の関係から紹介できる事例が限られ、PRがやりづらいことなど話された。

“深溶け込み溶接”、熱影響部が狭いことなどを特徴とする技術だが、開先精度管理などの点で注意すべき点もあり、当然ながら使いこなすにはそれなりのノウハウが必要とのこと。

さらに、競合する「レーザ」あるいは「FSW（摩擦攪拌接合）」技術を見据えて、技術展開を図っていることなどの紹介があった。

第四部会技術講演会

人間を取り巻く水環境と 安全な水道水の確保

第四部会 藤野 恭裕
（総合技術監理、水道・福岡）

平成15年11月13日（木）福岡市博多区の福岡商工会議所ビルの会議室で、本年度の技術講演会を実施しました。

従来この研修会は、技術士だけを対象に実施していましたが、小宮第四部会長以下、会員の目標とし



て「地域における産官学との連携の強化」「地域に根ざした技術士」をめざそうと今回は、日本水道協会九州支部の後援のもと、一般の方にも広く参加を募りました。

その結果、77名（民間33名、官公庁28名、技術士16名）の参加を得て盛会となりました。

研修内容は、水の世紀とも呼ばれる21世紀、世界的に水源開発や管理、そして節水など多くの課題を克服していく必要性が叫ばれておりますので、講師に水の専門家である藤井利治福岡市水道事業管理者（工学博士）をおむかえし「人間を取り巻く水環境と、安全な水道水の確保」と題して約2時間講演していただきました。

ここで講演内容の一部をご紹介します。

第1章 地球に水と人が誕生するまで

地球が、46億年前に誕生し30億年前から、太陽光と水と炭酸ガスによる光合成を行うようになり、20億年前に酸素を含む大気ができた。4億年前に、オゾン層が太陽からの強い紫外線を十分に吸収するようになったことで、陸上は生物にとって安全な場所となり、最初は植物が、その後は動物が陸上に上がった。

第2章 水は生命の源 羊水は海水から生まれた

ほ乳類は、別名「海をはらむ族」といわれ、羊水の塩素イオン濃度は約3,400ppmと海水の5分の1程度の濃度で、胎児の小腸には「瀨木（せき）の帽子」という器官があって、汚れた羊水を浄化している。

第3章 気候がつくった歴史

縄文時代は、現在と比較して、平均気温が2度高く、九州は亜熱帯の気候で、暑すぎて生活には適さなかった。その後、寒冷化となり紀元前3世紀頃か

ら、北部九州地方を中心にして弥生時代が始まった。12世紀の末になると、降水量が減り旱害が発生し各地で飢饉となり平家は衰亡した。17世紀から寒冷期に入り、19世紀までは小氷河気候となった。特に北に厳しく南に緩やかであったため、関東以北では飢饉や災害が多く発生したが、南日本では温和な気候に恵まれ、薩摩の島津、長州の毛利、土佐の山内などが勢力を伸し、その後の明治維新へとつながった。

第4章 異常気象 エルニーニョ現象

第5章 地球温暖化はなにをもたらす

二酸化炭素が変える気候、天候デリバティブ

第6章 水環境の破壊

今後のエネルギー対策、日本のヴァーチャルウォーター（仮想水）輸入量は、国内の総水使用量の86パーセントとなり、農畜産物を輸入しないとすると、日本の農業用水は2.3倍の水が必要。

第7章 安全な水道水の確保

塩素処理の問題点、オゾン処理の導入、膜ろ過技術開発

第8章 水道事業の民営化

日本での水道民営化の動きは、米国の地方公共団体とほぼ同じ動きである。

このように話題は「水」をキーワードとして多方面にわたり、予定された時間内では博学の藤井講師のほんの一部でしたので、その後講師を囲んでの小宴でも、幅広い話題に花が咲き、予定時間をオーバーする盛況でした。

最後に、藤井講師は現在、「水と人類」を題材とした本を執筆中でその出版が待たれるところです。

第一部会技術研修会（平成15年度）

講演 2 題

第一部会長 野見山益生（機械・福岡）

平成15年11月22日 参加18名（博多第一ホテル）

電気エネルギーの現況と展望

技術士（電気・電子 総合技術監理・鹿児島）宮脇優先生
世界のエネルギー消費状況として2000年度の実績より日本は5.8%で米国、中国に次いで第3位にあり、国内の一次エネルギーの供給内訳、消費内訳及び電源種別内訳の説明を受けた。

エネルギー界の最大の課題はCO₂排出量の削減で、

地球温暖化の抑制、目標数値として2010年に6%減を掲げている。地球温暖化のメカニズムの中で近年の産業活動・森林の減少等で温室効果ガスの濃度が増加し温暖化が進行している。この地球温暖化が与える影響として水資源の変動、自然生態系、海面上昇、異常気象等が挙げられ、CO₂削減の方策として省エネルギー、新エネルギー、電力等の燃料転換がある。

電気事業のCO₂削減対策は、火力発電所の熱効率の上昇コンバインド発電、液化天然ガスの採用及び新エネルギーへの転換等である。コンバインド発電はガスタービンと蒸気タービンの組み合わせで、効率は従来30~40%が50%迄上昇する。新エネルギーの種類としては、太陽光発電、風力発電、太陽熱利用、温度差エネルギー、廃棄物発電廃棄物熱利用、廃棄物燃料製造、バイオマス発電、燃料電池等があり各々について解説された。

次に新エネルギーのコスト比較であるが、いずれも既存の電気料金より若干高めである。新しい未利用資源として、メタンハイドレートに関する説明がなされた。メタンハイドレートは水とメタンガスから成る個体物質で、海底堆積物の中や、永久凍土の地下に広く分布し、15~20年を目標に開発が進められている。

最後にまとめとして、電気エネルギー界の主要課題としてエネルギーセキュリティの確保、地球環境問題への対応、電力自由化への対応等詳しい報告があった。

熊本県における工業技術センターの役割と支援の状況について

技術士（機械 総合技術監理・熊本）高橋孝誠先生
当工業技術センターは、地域企業の技術支援機関として年間5千件に及ぶ技術相談、設備利用、技術者養成等多くの県内企業に利用され、県の工業振興に大きな役割を果たしている。特に製造業は厳しい経営環境にあり、技術課題の把握と研究成果の普及実用化に積極的に取り組んでおられ、より一層の成果を挙げるべく、組織一丸で日夜努力されている。

工業振興の課題としては、産業集積と高度化の促進、新事業の創出、地域企業の技術力・経営力及び研究機関力の向上、地域資源を活かした産業の振興、人材の確保・育成、ITへの対応等をテーマとされて、県工業の将来像としては、基本姿勢、目標値（平

成22年4兆円）重点5分野（新製造技術、情報通信、環境関連、バイオテクノロジー、医療福祉関連）を掲げ、将来像に向けた基本戦略と具体的施策が確立されている。

九州各県の工業技術センターの比較の中で、センター人員一人当たりの工業出荷高の割合は熊本県が一位で、次いで福岡、大分の順となっている。

次に工業技術センターのHPの紹介があった。生産技術部の概要として、人員構成、研究テーマ、技術相談案件441件、技術指導1,020件、依頼試験9,650件、設備利用1,600件の膨大な相談指導を抱えられており、その各内容について詳しい説明を受けた。特にコンピュータ解析（CAE）関連の技術指導設備利用の実績が年々右肩上がりに増加し、具体的な解析結果に深く感銘を覚えた。

今回の研修は全てパワーポイントによるスライドを使った説明で、特にインターネットによるホームページの紹介には大変解り易く参考になった。研修会終了後近くの居酒屋で簡単な懇親会を行い、大変有意義な一日であった。



第一部会研修会

第二部会現地研修会

新北九州空港連絡道路

第二部会長 長野 紘一（建設・福岡）

CPD 研修の一環として第 2 部会現地研修会を、新北九州空港連絡道路にて行いました。

新北九州空港連絡道路は、平成17年10月開港をめざして建設が進められている新北九州空港と、東九州自動車道苅田 IC を結ぶ 4 車線の幹線道路です。

またこの道路は、空港、港湾、陸上交通を連結し、北部九州の産業発信基地の根幹をなすものであり、延長約 8 km です。

今回は、その中で主に海上橋を中心に、現地研修を行いました。

諸元

研修場所 新北九州空港連絡道路

日 時 H15年11月27日 13：00～16：30

参加人員 30名

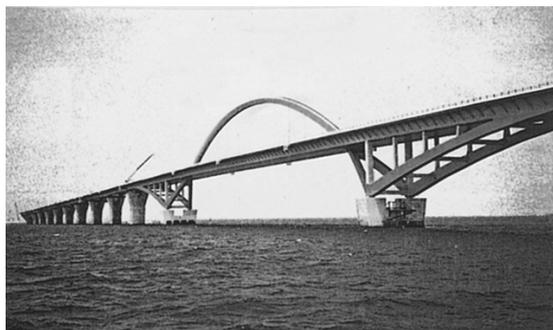
研修内容 主に海上部橋梁

- ・ 上部工形式（3 種 1 級、幅員22m）

中央部：鋼モノコード式バランスドアーチ橋
側径間部：鋼床版連続箱桁橋

- ・ 下部工形式：RCY 型橋脚、RC 壁式橋脚
- ・ 基礎工形式：鋼管矢板井筒基礎（ $\phi = 1,000\text{mm}$ ）
仮締切兼用となっている。

中央経管210m、側経管95m



中央部附近から苅田 IC 方向

研修は陸上より橋面に上がることが出来る時期を待って計画したので、11月末となりました。

当日は、生憎の強い風の吹く寒い日でしたが、雄大な海上橋の上で、片山所長さんを始め職員の方から懇切丁寧な説明をしていただきました。

特に関心が持たれ質疑があったのは、日本でも初

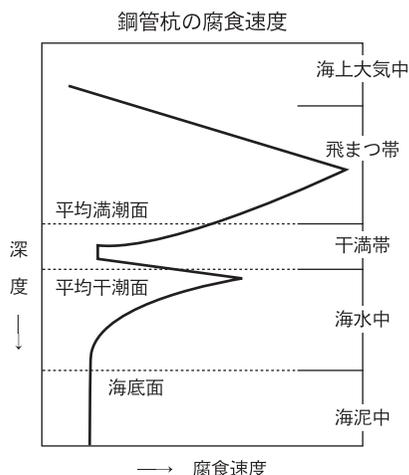
めの試みである橋脚モニタリングシステムや 2 重防食鋼管工法でした。

橋脚モニタリングシステムの考え方は、橋脚内部に 0.1mm の極細鉄線をコンクリート表面から 5 mm、25 mm、50mm、75mm の深さに配置して、その情報を外部計測器でつかむ仕組みです。

外部からコンクリート中へ浸透した塩化物イオンは順次鉄線を腐食させる。実際には鉄線が極細であるため、腐食開始と同時に破断し、鉄線両端に電位差が生じ、その位置でのコンクリート中の塩化イオン量が、限界値を越えたと判断するもので、塩化イオンの浸透速度も推定することができるものです。

2 重防食鋼管工法を採用した理由としては、電気防食工法は海中交換等には適しているが、下部工の基礎など点検不可能な構造物には採用されていません。

また、腐食しろを見込むと 30mm 近い厚さとなり鋼管加工が困難となるとのことでした。



上図の資料に対して常に海水が上下している干満帯で、なぜ鋼の腐食速度が他の部位より小さいのか、との疑問に対して、後日資料を貰ったので概説します。干満帯は常に海水が上下するため、酸素の濃淡に基づくマクロセル（大きな一種の電解槽）が形成されるためです。

即ち、酸素の供給が比較的に良い干満帯では、自然電位はプラス方向の値を示し、マクロセルのカソード（陽極）となります。

一方、酸素の供給が比較的に悪い海水中平均干潮面では、自然電位はマイナス方向の値を示し、マクロセルのアノードとなるからだそうです。（カソード反応） $\frac{1}{2}\text{O}_2 + \text{H}_2\text{O} + 2\text{e}^- \rightarrow 2\text{OH}^-$ アノード反応 $\text{Fe} \rightarrow \text{Fe}^{2+} + 2\text{e}^-$

三峡ダムの現場見学記

三峡ダムの建設工事は

これだけ進んでいます

小野 満司（総合技術監理、建設・福岡）

1、見学の経緯

4年前の1999年（平成11年）10月、きゅう会（旧九州地建でダム事業に携わった技術者のOBの会）で三峡ダムの第2期工事を見学して以来、第三期工事への切り替え時期にもう一度見たいものだと思っていたが、今回日本技術士会九州支部の呼びかけで現場見学が企画され、これに参加する機会を得た。参加者は九州支部の有志6名。

2、行程およびコース

8月30日 福岡空港15時過ぎ発→武漢空港17時着時発（1時間の時差）、武漢泊。

8月31日 武漢より貸切バスで高速道を利用して三峡ダムへ、ダム工事現場を見学、その後ホテルで説明会。三峡泊。

9月1日 早朝より船で「永久閘門上り」に試乗。午後、貸切バスで武漢へ。武漢泊。

9月2日 武漢空港10時過ぎ発→福岡空港13時着

3、現場見学

ダム現場の見学コースは次の通りで、工事現場を一通り見せてもらった。

第1日目；展望台→ダム天端道路→ダム背面中段の通路→地下発電所→（下流長江大橋経由）右岸締切内掘削部→ホテルで説明会

第2日目；ダム下流船着場より船（巡視船）に乗って、5段の永久閘門を一般の貨客船に交じって上る。（所要時間約5時間）

4、工事概要の説明（8月31日・現地の技術者より）

●総工事費……800億元（1993年時点）→1,800億元（2009年推定）

●発電……設備；70万KW×26基＋右岸地下発電所6基増設

（1820万KW→2440万KWとなる）

発生電力量；847億KWH→1,000億KWH

（既設を含む）

●掘削量……10,259万 m^3 →10,300万 m^3

●コンクリート量……2,717万 m^3 →2,800万 m^3

●永久閘門……（280m×34m）×5段×2列

●仮締切（第3次）……昨年10月より転流工事開始
流量は10,000 m^3/s （渇水時は3,500 m^3/s ）

締切ダムの体積—3,600,000 m^3 、籠に25tの石をいれ投入、遮水には特殊の基礎工を採用。既に1期工事で低部コンクリート打設済み。

●上流本締切ダム……天端標高EL、145m、02年12月より03年4月中旬まで約4ヶ月で打設。

●現在の流量と発電状況……堤体放水路より18,000 m^3/s

発電機より 約4,000 m^3/s 計約22,000 m^3/s

発電量……EL、135の水位で450,000KW×4基
=1,800,000KW

メーカー……フランス・カナダ等外国産8基、
残りは国産（ハルピン外）

●工事の進捗状況……1992年に着工、順調に進行している。2003年6月、永久閘門・発電機の運転開始、発電は計画より2ヶ月早い。

●工事の品質向上策

1）施工する会社の質を重視……外国の技術者



左岸展望台よりダムを望む

(フランス・オーストラリア・日本) を呼んで品質管理を担当して貰っている。24時間交代で担当。

2) 安全対策には最大限留意……死者・今年03年3名、02年10名、01年18名、00年26名(前田建設より3名派遣、安全のチェック・教育を担当)

5、質疑応答

Q；ISO への取組みについて、施工業者への義務づけは？

A；入札の条件としている。(96年から)

Q；EL. 175m(満水位)の湛水が、重慶ではどれだけ上昇するのか？

A；重慶では、洪水時に年間30m程度の水位差が生じる。EL. 175mの湛水が重慶ではEL. 180(渇水期)～185(豊水期)mと考えられる。従って湛水による水位上昇の被害はないものと考えられる。

Q；三峡ダムの環境影響評価について——京都議定書ではCO₂の削減が義務づけられたが、三峡ダムはこれに貢献していると思うが？

A；水力発電というクリーンエネルギーにより、5,000万トンの石炭燃焼を減らす。

Q；シップリフト(堤体に布設)の上端と上流側との接着部の構造と、その漏水対策は？

A；リフトで吊り上げて移動する。横移動するがここではその構造は不明。

Q；第3期締切工は、水深約60mの大深度の締切工であるが、その漏水対策は？

A；中心部に2列の遮水壁を設けた。600kg/cm²の高圧グラウト(急結性をもったもの)で固めた。2



右岸下流より見たダム放流状況

期工事の締切工の経験を生かした。漏水は16ℓ/minで非常に少ない。(詳細は資料を送る)

Q；洪水調節のルールは決定しているか？洪水予報の体制は？

A；雨期はEL、145mに制限。9月より水を貯める。洪水予報は、到達時間が長いので充分予報は可能である。

Q；長江委員会所属の有資格技術者数は？(6千人と聞いているが)。またダム完成後の技術者対策は？資格認定はどうなっているか？

A；上級、中級、初級の認定は、今年から国で行なう。所属人員25,000人のうち、有資格者は約1割程度ではないか。三峡ダム完成後は、長江上流のプロジェクト(水力発電・4箇所)に移動予定。

Q；送電ロスの対策は？

A；電圧を高くする方法をとる。現在、上海、重慶、広東まで送電中。

Q；三峡ダム建設の組織は？

A；長江委員会は、国務院の下部組織。その下部組織として三峡建設公司(日本では水資源開発公団か)。企業は、建設会社が選定する。

6、閘門乗船記録

9月1日早朝7時、三峡ダム下流の乗船場からスタートして、延長(280m×5段)1,400m・高低差約70mの5段閘門を約5時間かけて試乗した。1段1段と手順を踏んで上昇するわけであるが、かなり長い時間である。途中気づいた事を次に示す。

1) 閘門のゲートは、観音開きの構造で高さは30～40メートルの大きさで、近寄ってみるとびっくりするような大きさである。補強材は格子状の縦・横の桁の他に幾重にも斜めの補剛材が採用されていた。

2) 閘門内に船舶を係留するのに、かなりの時間を要した。これは狭い空間(幅34メートル)に2列に隙間無く大きな船を係留させるためである。

3) 満水位のEL、175に対して現在の水位はEL、135で、落差は40メートルあり、第5段のロックはどういう操作をしてEL、135の貯水面に導き入れるかが疑問であったが、これは第4段のロックから第5段のゲート进行操作することなく直接進入できるような構造にしてあった。(第5段の底部はEL、135より喫水深だけ低くしてあり、この水位から満水位まで、このロックで対応できるような構造になっていた) (平成15年10月)

地域だより

宮 崎

技術士会と NPO

代表幹事 新城 精一（建設）

穏やかな正月を過ごし、仕事始めに出社して初めて田中支部長の訃報に接し、愕然と致しました。最近、福岡に行く機会が無く、暮れの総合監理の合格発表で名前を見てお元気とばかり思っておりましたが、後で病院から試験を受けに行かれた事を知り、不義理を申し訳なく思いました。三峽ダムに行った時、支部長に進められるままに購入した漢詩の掛け軸が、今となってはかけがえのない思い出の品になってしまいました。心からご冥福をお祈り致します。

ところで、先日の一次試験の宮崎県内での合格者は、既技術士50名、技術士以外105名、計155名でした。技術士以外の合格者は前年の5名から105名と激増したことになりますが、そのほとんどは、宮大

との共催で実施した適性・基礎科目の研修会及びMLの参加者でした。二次試験の場合と同様、多大な成果に宮大に対して感謝しております。

今、宮崎では、この実績を基にNPO「みやざき技術士の会」設立に向けて佐賀、熊本を手本に準備中です。NPOの趣旨から会員を技術士・補に限定せず、会費制とする方針ですので、宮崎県技術士会を解散してそのままNPOに移行するわけにはいかず、別組織としてスタートすることになります。現在、宮崎は、会費が無いので支部、センターの会員、賛助会員が多いのですが、NPOになり、会費、賛助会費を徴収されると、支部、センターの会員、賛助会員が目減りし、ご迷惑をかけることになるかも知れません。

技術士が技術士会の枠を超えてNPO活動をし、地域社会に貢献していくことは好ましいことであり、望ましいことではあるが、各県のNPOが独自に会員・賛助会員を募り、受験講習会を実施していくと、支部、センター、支援センターとの競合が心配されるようになるかも知れません。

熊 本

楽しい熊本を盛り上げよう

吉田 紘彬（応用理学）

インフレ・デフレ・ウォール街に始まる世界大恐慌など、幼稚なようだが、中学～高校における社会科の試験問題となっていた。「人生は(+)(-)で結局(0)だよ」と、昔ある人に聞いていた。長い人生では景気の善し悪しも一通りは経験するらしい。

暗くなりがちな昨今、少しおもしろいと思ったことは、12月21日荒尾で高校生の演芸大会を見た。和太鼓・詩吟・山鹿灯籠・牛深天草ハイヤ踊りなど、いずれも一生懸命で感動的であり、関係者だけに止めるのはもったいないと思った。年が明けて1月13日、熊本城に現れる忍者3人が写真付きで地元紙に報じられていたが、一時的なパフォーマンスでなく、継続できたらおもしろいと感じた。

熊本市には湧水で有名な“水前寺～江津湖”があ

る。一画に動物園があり、1日2t近くの排泄物が発生するという。それをもとに発電して電飾をしたとか、江津湖の一部を“カバ園”にする計画もあるらしい。環境の変化を先取りしたカバ園も実現させたいアイデアである。水辺の蛍から離れてその影響がなければ、電飾もよいし、また、夜市も楽しめるからおもしろいと思う。

熊本～高森線の依山バイパス通称南阿蘇やすらぎロードの開通により、西原村物産館“萌の里”ではお客が3倍に増え、うれしい悲鳴を上げているらしい。また、天草のサンセットラインからロザリオラインを走って食べる“チャンポン”など、「観光熊本」の名を盛り上げなくてはならないと考えている。

熊本の技術士たちは、(社)日本技術士会に所属する九州支部会員、熊本技術センター会員、任意団体に所属する熊本県技術士会会員、そして、特定非営利活動に基づくNPO法人“みらい有明・不知火”と“熊本技術士の会”に分かれて活動している。これらはその団体の目的に沿って、それぞれ技術士の地位向上と地域貢献のためにがんばっている。

長 崎

長崎県技術士会の夢

代表幹事 大橋 義美 (総合技術監理・建設)

各地区の活動状況を「技術士だより」等で拝見すると非常に活発な展開をされており、長崎県の技術士会としても一歩でも近づいた取り組みをと考えています。技術士会の発展と活発化、そして、会員の技術力向上のためには、社会的役割と地位の向上に向けた活動が必要であり、このためには会員の増強と活動の量と質が重要だと思います。

そこで、「長崎県技術士会の夢」と題して日頃描いている会の姿を述べてみます。

夢の「第1は会員の増強です。」15年度に9名の加入者があり98名となりました。この内、正会員は89名で登録者の61%の加入率となりますが、先ずは80%以上の加入率となるのが夢。

「第2は総会・研修会への参加者の増員です。」過去の参加者は30名前後で本年の新年研修会は43名

と最高となりましたが、先ずは60名以上の参加による開催が夢。

「第3は研修会開催の回数の増加です。」現在までは年3回程の開催ですが、5～6回程の開催が夢。

「第4は会で発行している機関紙の充実です。」現在はA4×2ページで発行していますが、先ず3～4ページが夢、そして、会員名簿と合わせ研究発表等や機関紙を纏めた特集号(小冊子)の発行が夢。

「第5は技術士会の社会参加です。」県内の大学・研究機関・NPO・団体機関・企業等との連携による共催として、一般社会人も参加する研修会等の積極的な開催が夢。

以上に5つの夢を述べましたが、夢を実現するためには、会員同志が協力し合って運営する会であり魅力のある技術士会であることが必要で、会員の全員参加の活動が重要と思います。

1月31日(土)には、臨時総会を開催し会の運営、会員増強、連絡網の充実、メールの活用等について話し合い、その後、研修会、新年会を実施しました。

今後は、夢の実現へ向け会員の皆さんと一緒に頑張って一つ一つ進めて行きたいと考えています。

北九州

北九州地区技術士会の活動

代表幹事 是永 逸生 (総合技術監理・機械)

今回の北九州地区技術士会のトピックスは、初めて熊本菊池砦温泉まで遠出した年末の技術研修会(見学会)・総会兼忘年懇親会です。

12月20日・21日の二日間、北九州28名、福岡8名、佐賀・熊本各1名、合計38名の先生方の参加で盛會裡に又有意義な旅行となりました。

朝9時に北九州と福岡から別々に出発し、正午前に菊池砦温泉「くなくく城」に到着、直行組とも合流しました。

昼食後、七城町中央浄化センター、治水ダム他の見学をして引き続き、緒方七城町町長の特別講演「一味ちがった町づくり」を拝聴、農村地域で自然共生と真っ向から取組み、自信を持って町づくりをしている姿に感銘しました。

続く総会では①概して活発な活動、②新規参加者の増加、③技術報告の進め方を充実、④選挙での協力体制等が出来たが、反省として、⑤企業内技術士

との連携が不十分等を総括しました。

今後の進め方として新しい試験制度への協力、業務開発の積極推進等を約束して総会を終了しました。

入浴後に待望の忘年懇親会に移行、泉館副支部長の挨拶の後、熊本県の林代表幹事から贈呈戴いた樽酒の乾杯で宴会を開始しました。

宴会では恒例の月例会皆勤賞表彰や熊本から参加戴いた卒寿の合志先生及びT年生まれのお古賀、完戸先生を特別表彰、完戸先生の漢文の特別講演で宴会は最高潮に盛り上がりました。

新規参加者や他地区の先生との相互自己紹介等懇親会の役目を十分に果たす事が出来たと思います。

その後、全員二次会で再度カラオケパーティ。マイクの順番待ちや、全員がプロ級の歌声に感心すると共に、俄かカップルの誕生等温泉の夜を満喫しました。

部屋に戻って、更に技術士会の進め方に関して熱心な討論を実施、技術士会の前途は心配ないとの感想でした。

翌朝は朝風呂の後朝食、七城町名物のメロン等のお土産を買い、来年も是非遠出の総会をやりたいとの声で無事、大旅行を終える事が出来ました。

幹事をはじめ、関係者の皆様ご苦労様でした。

I

科学する心を子ども達に!!

遠田 勝美 (建設・佐賀)

21世紀は日本にとって手本のない時代であり、新たな世紀、グローバル化の時代の担い手である子ども達には、科学に親しみ、興味・関心を高め、自ら問題を発見し、観察・実験を行い、解決するという科学的に探究できる資質や能力の向上が求められています。しかしながら現状は、子どもの自然体験、社会体験、生活体験の不足や理工系の大学への志願者の割合が低下傾向であることなど、若者の科学離れが指摘されています。

本来、子ども達は、自然の不思議さや謎に迫って自分なりの方法で解明したいという探究心をもっています。このような、科学に対する子ども達の旺盛な知的好奇心を受止め、地域ぐるみで支援していく必要があります。

子どもの教育は学校・家庭・地域が三位一体で取り組むことが大事とされていますが、私が子ども達と関わりを持ったのは、校区PTA活動をしていた時からで、いわば家庭の立場から支援してきましたが、私の子どもが卒業後は地域の立場で活動を継続し15年を経ています。技術士の一員と言うより子供と一緒に「科学する心」を勉強しているおり、ここではその様子を紹介します。

一つは、学校が週5日制となったのを機会にこれまでの行事に加え、「土曜教室」を開講しています。竹馬・紙鉄砲・水鉄砲・ペットボトルロケット・凧等の遊び道具づくり、魚釣り・川遊び・カブトムシ捕り等の自然体験、彼岸のおはぎ・クリスマスケーキ・しめ縄づくり・史跡探訪等社会歴史の伝承等を実践しています。

例えば、魚釣りでは里山から釣り竿に最適な竹を採取・釣り道具を作成、近くの河川で魚釣り、自ら料理・試食すると言う一連のプロセスを取っています。ただ魚釣りと言う遊びだけでは、釣った魚は捨

てられてしまいそこで完結します。結果より過程を重視し、「想像する心」「感動する心」「科学する心」を身につけられるようにしています。

子ども達は、すごい!、ふしぎ!と身の回りの出来事に驚き、感動しています。「なぜ? どうして?」と問いかけてきます。「なぜ? どうして?」の答えを見つけたり、分かったときの喜びは例えようのないものです。

参加者には小刀を持参させています。怪我もします。失敗もします。失敗の中からたくさんを学んでいくものと、辛抱強く暖かく・焦らず見守っています。『本やテレビで得た知識はあくまでそれしかない、実際に確かめてこそ本当の知識になる』と子ども達は感じ取っています。

二つは、学校への出前講座です。佐賀県土木部で得た知識の一部を子ども達に還元しています。

例えば「晴気川物語」と題して、川の水は上流の人が使った水を下流の人が再利用していること、川はいろんな動植物が棲んでおり人と共存していること、人が川を変えてしまい(コンクリートで覆う)ホタル等が棲み難くなったこと等を話しました。

子ども達からは、「大人が川にゴミを捨てている」「ホタルがもっと飛び交うようにしてほしい」「子どもの意見も聞いて欲しい」等が出されました。子ども達は技術的なことは分かりませんが素直な純粋な意見をぶつけてくれます。

某玩具メーカーが「表面がピカピカの泥ダンゴを簡単に作れる土?」を売り出すとの報道をテレビで見ました。

私は、商魂たくましいな、子どものニーズを捉えている、都会では致し方ないかな、との思いで見えていましたが、若い読者の女性から某新聞の投稿欄に『泥ダンゴ……大好きなおやつも忘れ、ひたすら砂場に向かう。崩れてもまた挑戦する。だからこそ、泥ダンゴが上手にできた時の喜びは計り知れないほどのものだ。……ふざけるな!と怒りがこみあげた。時間をかけ、手間をかけ、失敗を重ねてこそその感動。その子どもの感動を、大人がいとも簡単に壊していく。最近の子どもたちは無感動だと言われているけれど、その原因は明らかに大人側にあるのだ。』と発

信されていました。

子ども達は川遊びをしているなかでよく泥ダンゴをつくっています。砂、粘土、どの土がダンゴになりやすいか、どの程度水を加えればいいのか体験を通して知識を習得しています。

我々技術士にとって子ども達に、今何をなすべきか、考えさせられる出来事でした。……

(平成16年2月7日)

II

日 本 人

鹿児島県技術士会会員

井内 祥人 (林業・森林土木)

最近のアメリカ牛肉のBSE問題、そしてアジア各国の鳥インフルエンザ問題、日本人の口に入る食料が混乱している。さらに先日発表された、日本人の90%が日本の食糧供給に不安を持っている意識調査。

現在の日本の食料自給率は40%、それを45%にあげようとする施策がある一方で、世界各国から日本人消費者ニーズにあった食品を、自由化によって輸入しようとする、既得権益団体等が猛烈に反対する。しかし、過去にオレンジ、牛肉の自由化があって大騒動したが、現在はどうかであろうか。自由化に反対することが正解であったか否か。賢明な日本人消費者は、自由化後、どのような行動をとってきているのだろうか。

私ども技術士の行動及び成果はもちろんであるが、産業界も同様に、結局、日本人国民の利益に合致しないと、その存在意義はないと思う。

私は、現在、木材に関する業務に携わっているが、木材に関しては、農業と違って、とっくの昔(40年前)に自由化された。1960年夏頃、国産材針葉樹製品を中心に大幅な値上がりがあり、政府が国産材増伐と外材の緊急輸入を始めたのがきっかけである。1964年には、外材丸太の関税は、すでにゼロ、すなわち無税となっている。その後、外材製材品も数次にわたる交渉等により、20%あった関税も現在は、製材品のごく一部について3.9~10%となっている。その結果、国産材の値段も大幅に下がり、国民が国

産材を得やすくなった。この事実は、ある意味では、国民に安い材を提供するという国策の成功である。国民の利益に合致しているものである。

自給率でいえば、木材自給率は1955年には95%あったが、輸入自由化を経て、現在は18%となっている。現在、日本人は、建築用材、チップなど木材に換算して、毎年、9千万m³の木材を消費しているが、自国で賄っている量は、2千万m³にも満たない。だが日本の森林の生長量は、毎年、9千万m³あり、数字の上では単純に、完全に自国の木材で、日本人の木材使用量は賄える格好となっている。

そして、国産材(スギ中丸太)と外材(指標:米ツガ丸太)の1m³当たりの価格についても、1992年から、ずっと外材の方が高く、国産材が安くなっている。製材品についても1997年から丸太と同様である。公表されているデータがこの事実を示しているが、不思議なことに、ほとんど誰もこれを消費者に明らかにしたがない。

しかし、自給率18%が示すように、日本人は、国産材が高いと思い、結局、高い外材を求め続けている。安ければ(国産材が)売れそうであるが。それゆえ、日本が世界中から「木くい虫」といわれるゆえんである。

この事実を、認識している木材関係者は一部である。相変わらず、「外材が安いから国産材が売れない」という20年ほど昔の意識で、商売を行っている人が、あまりにも多い。結局、自分たちが、何も努力もせず、ただ、棚ぼた式感覚で国や県の補助金にどっぷり浸かり、責任を転嫁することばかり考えている産業が発展するはずがない。一方では、国際情勢や日本人のニーズをしっかりと分析把握し、産業として成功している人もいるのに。

現在の日本では、あらゆる産業において、淘汰が必要な時期にきているのではないか。21世紀は、日本産業にとって淘汰の世紀だと考えている。

冷徹なデータや確固たる事実は、マスコミや既得権益団体等によって作られた偽神話、偽情報などに比べて最良の情報である。そういう最良の情報を、国民に提供することが技術士の役割である。

日本人は非常に賢い国民である。正確な情報によって、正しい行動を起こす。私ども技術士は、再度、このことをしっかりと認識すべきである。国民に役立ってこそその科学技術である。

【委員会情報】

九州支部 IT 推進の経過と今後の方向

——同報メールシステムが動きだします——

支部 IT 推進委員長 大里 信義（総合技術監理、化学・北九州）

故九州支部長田中穰治先生が、九州支部も含めた技術士会の IT 化の遅れについて危機感を持っておられ、九州支部内に IT 推進委員会を設置されてはや 1 年 4 ヶ月が経過しました。今までの経過を簡単にレビューし、さる 1 月 21 日に行われた支部 IT 推進委員会の結果決定された今後の方向についてご報告します。

当初は支部正会員（技術士会会員の九州支部所属の方）、センター会員（九州技術士センター会員で技術士会会員でない方）がインターネットを利用して事務局から早く、安く、質の高い情報を受け、また会員同士が業務遂行にお互いの専門知識や経験を効率的に情報交換できることを目指して、アンケートによる会員の現状把握と通信の基礎となる会員のメールアドレスを集めることから始めました。これによって会員の約 70% のメールアドレスを集めることができました。又 90% 以上の方が E-Mail による通信が可能であることがわかりました。

ついで支部独自のシステムを構築することを目指していろいろと検討を重ねましたが、現状のファックスによる通信システムに、メールによる通信システムを付加するとなるとかなりのコストアップが予想されることがわかってきました。

丁度そのとき、本部の方でも技術士会全体の IT 化を目指してシステムを構築しつつあり、かなりの部分が支部の目指す IT 化に合致するということがわかってきました。IT 推進委員会でいろいろと検討を重ねた結果、費用の面でも手間の面でもできるだけ本部のシステムを利用し、また支部からの要請も聞いてもらい利用しやすいように改良してもらいながら IT 化を進めるという方向が効率的であるという結論に達しました。

本部のシステムについては、詳しくは PE（月刊「技術士」）10月号36ページ、その他をご参照ください。端的に言えば、同報メールと称して、会員にメー

ルアドレスその他の情報を登録してもらい、その中で必要な会員に、必要な情報を、必要な時期に E-Mail で同時に発送するということと、登録会員に対してはホームページの会員欄を通じてより詳細な情報を取得してもらうことから成り立っています。

今後の方向ですが、九州支部としては、なるべく早く現在のファックスによる通信から徐々にこのシステムに切り替えていって、費用の削減とサービスの質の向上に役立てたいと思っております。そこで会員の皆様をお願いしたいことが 2 点あります。

第 1 点は支部正会員の皆様はこのサービスが受けられるように、ぜひ全員会員情報の登録とパスワードの取得をお願いいたします。センター会員の方も技術士会正会員として同様なサービスが受けられるようにできるだけ支部正会員に移行していただき、上記の登録をされるようお願いいたします。

第 2 点は各種講演会や部会などの情報の発信者の方は、登録会員に対しては同報メールを利用しての必要情報の発信を開始して、不慣れな点や不具合点などを改良していただくと同時に、情報を受ける個人会員の方はホームページの利用とあいまってより高度の情報の取得に慣れていただきたいということです。

システムがある程度整ってきたら、IT 化の最終段階は各個人がそれぞれ IT を活用して自分の業務に役立てるようにすることです。この段階で又システムの不備が見つければそれを改良していくということでより使いやすいシステムに改良されて行くものだと思います。

最初はいろいろと不便をおかけするかもしれませんが生みの苦しみということでよろしくご協力のほどをお願いする次第です。

本部ホームページ「WEB 名簿」にメールアドレスを登録する方法については、PE（月刊「技術士」）04年 2 月号32～33ページをご覧ください。

おめでとうございます 平成15年度技術士第一次、第二次試験合格者(福岡会場)

★第一次試験(平成16年1月30日発表)

平成15年度の技術士第一次試験は、受験申込者が激増し、福岡会場では受験者が5,845名(昨年度の約倍増)でした。これに伴って合格者も増加して、15年度合格者は2,558名、昨年の約7倍となりました。

それでこの紙面への合格者氏名掲載は割愛させていただきます。「九州支部ホームページ」の「お知らせ」をご覧ください。〔URLは最終ページ奥付にあります。〕

平成15年度技術士第一次試験結果

	全 国	福 岡
受験申込者数 (A)	67,581人	6,933人
受験者数 (B)	57,078人	5,845人
合格者数 (C)	28,808人	2,558人
対申込者数合格率 $\frac{C}{A}$	42.6%	36.9%
対受験者数合格率 $\frac{C}{B}$	50.7%	43.8%

★第二次試験(総合技術監理部門を除く)(平成16年2月17日発表)

機械部門 (精密機械)	由 浅 直 洋 中 村 聖 三 姫 野 素 志 (機械設備)	佐 藤 哲 也 木 村 晋 服 部 豊 村 田 勇 次 能 見 眞 人 出 口 近 士 松 崎 明 (トンネル)	松 井 正 樹 (水質管理) 松 永 敬 治 水 沼 道 博 水道部門 (上水道及び 工業用水道)	津 田 隆 信 檜 物 勤 陣 野 政 輝 波 野 正 已 情報工学部門 (情報システム)	
電気・電子部門 (情報通信)	藤 野 真 也 (都市及び 地方計画)	岩 橋 一 成 出 本 剛 史 (施工計画、 施工設備 及び積算)	志 道 元 直 手 島 親 司 (下水道)	農業部門 (農業土木)	
大 川 秀 喜	松 永 義 一 (河川、砂防 及び海岸)	森 野 文 隆 友 永 利 光 満 安 政 幸 淵 之 上 勲	盛 永 保 弘 野 澤 仁 志 宮 村 澄 孝 津 田 伸 志 上 田 純 久 林業部門 (林業)	応用理学部門 (地質)	
建設部門 (土質及び基礎)	松 坂 寿 信 小 西 義 夫 杉 元 健 一 田 中 克 福 原 昌 子 (鋼構造及び コンクリート)	吉 川 智 彦 天 方 匡 純 榎 屋 博 志 (道路)	幸 俊 宏 辻 秀 造 牧 島 昌 博 森 野 文 隆 友 永 利 光 満 安 政 幸 淵 之 上 勲	環境部門 (環境保全計画)	坂 本 力 児 玉 浩 伊 藤 実 牧 野 隆 吾 佐 藤 良 江 口 恒 夫 玉 井 健 司

★第二次試験(総合技術監理部門)(平成16年2月17日発表)

機械部門 (機械設備)	建設部門 (土質及び基礎)	甲 斐 伸 一 重 信 光 男 宮 崎 辰 彦 高 野 道 直 南 里 勝 太 田 義 信 室 田 博 文 工 藤 典 比 古 渡 邊 一 堺 美 智 雄	筧 島 昇 (コンクリート)	津 田 敏 行 愛 敬 圭 二
井 崎 伸 二	市 原 浩 司	田 中 義 人 佐 原 邦 明 副 島 勇 造 板 垣 龍 夫 盛 田 信 広 子 上 住 夫 谷 口 慎 一	コ ン ク リ ー ト) 山 川 純 雄	
電気・電子部門 (電気応用)	宮 本 浩 二			
化学部門 (燃料及び 潤滑油)	筧 島 秀 利			

平成15年度技術士第二次試験結果

	全 国	福 岡
受験申込者数 (A)	8,931人	845人
受験者数 (B)	6,428人	625人
合格者数 (C)	1,678人	145人
対申込者数合格率 $\frac{C}{A}$	18.8%	17.1%
対受験者数合格率 $\frac{C}{B}$	26.1%	23.2%

福田 哲郎	石本 俊亮	右田 隆雄	恒松 泉	鬼木 哲	(地質)
服部 克美	石井 栄造	宮野 和幸	八重尾 恭彦	津田 伸夫	是石 康則
松永 昭吾	(港湾及び空港)	八木 章久	西村 寛信	<u>衛生工學部門</u>	三田 和朗
(都市及び	藤田 浩一	大隈 徹浩	<u>水道部門</u>	(空調和施設)	遠座 昭
地方計画)	(道路)	下登 新一	(下水道)	藤村 洋人	西川 直志
井上 康志	阪本 紀博	柴田 浩史	石井 信次	中谷 博	
内田 智昭	高原 茂樹	(トンネル)	中原 公治	<u>農業部門</u>	
遠藤 俊宏	橋元 健二	荻田 雅弘	船越 龍徳	(農業土木)	
(河川、砂防	後藤 裕司	(施工計画、	岸田 徳康	上尾 清光	
及び海岸)	藤本 拓男	施工設備	松井 正樹	菊池 秀城	
堀 俊男	今村 安美	及び積算)	衛藤 郁	(農村環境)	
松崎 宏文	國師 栄八郎	門脇 哲郎	若林 秀幸	佐藤 隆	
佐藤 和大	宮副 一之	(建設環境)	松本 眞明	<u>応用理學部門</u>	

技術士第一次試験に合格して

(建設部門)

西日本技術開発株式会社 山崎 俊也

1. 自分の職務と技術士資格との関係

私の所属する建設コンサルタント業界においては、技術士資格は最も重要な資格の一つである。資格の有無が、自身の社内外での評価はもとより、業務受注時のメリット等々、広範囲にわたり影響を及ぼす。今回私が受験した技術士一次試験は、技術士資格取得(二次試験合格)への第一ステップであり、一次試験を合格し、技術士補となることが、技術士となるための必須要件となる。

2. 技術士試験との関わり合い

私は今、入社6年目であるが、入社当初にも一次試験を受験した。そのときは手も足も出なく、不合格であった。当時はまだ、一次試験合格は、二次試験受験のための必須要件ではなかったこともあり、その後しばらく、一次試験を受験することはなかった。しかし、その後の技術士制度改正により、一次試験合格が必須要件となったため、今回、受験して、なんとか合格することができた。

3. 試験に向けての勉強法

新制度となり、科目数が増えた試験に対し、当初私は勉強法を定めきれずにいた。科目として、基礎科目、専門科目、適性科目があるが、いずれの科目も対象は広範であり、的を絞るのは難しい。そこで

私は、比較的早い段階から試験のネタとなりそうな情報の収集に努めた。それと同時に、(有)九州技術支援センター主催の受験講座に申し込み、月一回の講義を受けた。受験講座では、それぞれの分野において、専門の技術士による、独自の資料を用いた、的を得た指導を受けることができ、効率的に学習を進めることができた。その他の情報収集は、主としてインターネット、専門雑誌等をもとに行った。また、社内の他の受験者との情報交換も努めて行うようにした。

4. 今後の抱負

私の技術士資格取得への取り組みはまだ始まったばかりである。幸い私のまわりには、技術士の方が多くおり、また、技術士会に入会してCPDにより研修したい。諸先輩方のご指導により、自分の知識を増やし、技術を磨いて行きたい。

技術士第二次試験に合格して

(建設部門)

九州技術士センター準会員 松永 敬治

1. はじめに

私は、建設コンサルタント会社に入社以来13年間、いつかは技術士として社会に貢献したいと考えていました。しかし、技術士第一次試験合格後は目の前の業務に追われ、何をどう勉強すれば良いのかの傾向と対策が分からず、今日まで来てしまいました。

そのような折に、九州技術士センター企画・監修のもと、(有)九州技術支援センターにおいて平成15年度技術士筆記試験受験講座が、また、筆記試験合格後は口頭試験受験講座が開講されることを、先輩を通じて知り即座に受講を決めました。

2. 筆記試験受験長期講座の受講

本講座では、1月から7月までの7ヶ月間に4回のスクーリング及び個別論文指導、2回の模擬試験が開催されました。更に、論文作成においては日常的に担当講師からの個別指導を受けることが可能なため、論文の精度向上に大いに役立ちました。なにより、論文作成には常に提出期限が決められていたことから、なまけものの私にとっては非常に有効でした。また、講座において定期的に担当講師及び受講生の皆さんと顔を会わせることで、試験に合格したいという強い気持ちを持続することができました。

3. 口頭試験受験講座の受講

幸いにも筆記試験に合格したため本講座を受講しました。本講座では11月下旬に1回のスクーリング及び模擬面接、個別指導を受けました。試験前に本番さながらの面接を体験し、講師から自分の弱点を指摘・修正頂いたことより、試験本番では萎縮せず力を発揮することができました。

4. おわりに

私は、講座の受講及び日々の勉強を通し「学ぶ楽しみ・知る喜び」を知りました。また、「技術者は常に謙虚な姿勢であるべき」ということを強く感じました。私の人生において、技術士第二次試験に合格できたことは大きな出来事だと感じています。そしてなによりも、本講座で御指導頂いた技術士会の竹内良治先生との出会いは、技術者としての姿勢を学ぶことができ、今後の私の技術者人生において大きな収穫となりました。

総合技術監理部門に合格して

(建設部門)

鹿児島市 皇徳寺台 3-39-11 田中 義人

1. はじめに

合格して、美酒に酔いしれていてもいいのに、何か疲れている。昨年来、引き受けた仕事のがのび

びになって、今ごろ処理している。それに加えてこんな時に限って新しい仕事が舞い込む。さらに、技術士会九州支部(有)九州技術支援センターから本文の依頼を受けた。本文の執筆者はどうしても私でなければならないようだ。

かねてより、野口悠紀雄の「超整理法シリーズ」、和田秀樹の「他人の10倍仕事をこなす私の習慣」など、いわゆるビジネス書を濫読しているが、現実的にはほとんど役に立っていない。締め切りに追われて、整理ができないまま本文の執筆に取り掛かっている。

2. 道程

技術士(建設部門;土質及び基礎)には、約5年の歳月を重ね、平成12年度に合格した。その翌年、平成13年度から総合技術監理部門が創設されたので、これに合格すれば、さらに箔がつき、引退後も左団扇になるのではないかと、かなり甘い動機で受験した。

しかし、いわゆる「青本」を手にして、“これはなんだ!!”と思った。カタカナ語やアルファベットが次々と出てきて、2回ほど通し読みをしても総合技術監理とはいったい何なのかさっぱり理解できない。受験情報も少なかった。

そんなわけで、平成13年度の受験は失敗したが、周辺にけっこう合格する人もいたので、平成14年度も挑戦することにした。しかしながら、準備と勉強が不足したため、試験開始早々あわててしまい、答案用紙を間違えて試験を放棄した。

3. 本年度の受験対策

平成14年度で多くの技術士に追い抜かれた。そこで、腰を据えて受験に臨むことにし、モチベーションを維持するため、(有)九州技術支援センターの受験講座を受講した。

講座は、5月から7月の間に3回あり、鹿児島から福岡へ通った。受講者が少なく、センターの事務所で、マンツーマンに近い講習を受け、有益な資料を貰い、試験の情報も得た。経験論文の添削も受け、独り善がりな論文を修正することができた。

4. おわりに

今回は、落ち着いて受験することができた。面接も無難にこなせたと思う。やはり、しっかり準備して臨まなければいけないようだ。

今年、受験する技術者の健闘・合格を祈念して本文を閉じる。

会員ニュース

☆(株)日本技術士会(九州支部)入会

(地区) (区分) (氏名) (部門)

(上段:連絡先/下段:勤務先)
 <連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ>

大分	正会員	松本 邦男	建設	〒871-0161 中津市大字上池永1287 松本技術コンサルタント(株)	☎(0979)23-3636 FAX(0979)23-4139
北九州	正会員	田村 光彦	化学	〒808-0135 北九州市八幡西区浅川学園台3-3-1 (株)北九州産学術推進機構	☎(093)691-9568 FAX(093)691-9568 ☎(093)695-3440 FAX(093)695-3439
北九州	正会員	大八木象司	電気電子	〒802-0836 北九州市小倉南区石田南1-5-26 九州建設コンサルタント(株)	☎(093)963-3634 FAX(093)963-3634 ☎(097)551-6211 FAX(097)551-6231
大分	正会員	高橋 隆一	建設	〒870-0121 大分市大字横尾3681-1 (株)コイシ土木部	☎(097)520-4026 FAX(097)520-4026 ☎(097)556-0400 FAX(097)556-3028
熊本	正会員	藤木 茂	農業	〒811-2413 粕屋郡篠栗町尾仲1165-4 (株)オークスコンサルタント	☎(092)947-6959 FAX(092)947-7355 ☎(096)389-8111 FAX(096)389-6600
福岡	正会員	関口 勇	建設	〒838-0062 甘木市堤850-4 独立行政法人水資源機構筑後川局	☎(0946)24-4228 FAX(0946)24-4228 ☎(0942)34-7001 FAX(0942)37-8391
福岡	正会員	安藤 和人	建設	〒811-3221 宗像郡福岡町若木台3-18-3 九州コンサルタント(株)	☎(0940)43-2451 FAX(0940)43-2451 ☎(092)731-0750 FAX(092)731-1336
福岡	正会員	國友 七郎	建設	〒811-3115 古賀市久保1466-43 (株)五省コンサルタント	☎(092)942-0321 FAX(092)942-0321 ☎(092)281-4210 FAX(092)281-4274

☆九州技術士センター入会

宮崎	正会員	治田 堅二	建設	〒880-0911 宮崎市田吉5740-7 宮崎地盤テクノリサーチ(有)	☎(0985)54-6568 FAX(0985)54-6568 ☎(0985)64-2557 FAX(0985)64-2557
福岡	正会員	川端 義弘	林業	〒811-3217 宗像郡福岡町中央5-27-25サニーハイツ福岡201号 川端治山技術研究所	☎(0940)42-8488 FAX(0940)42-8488 ☎(092)724-6838 FAX(092)724-6838

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

(地区) (区分) (氏名) (部門) (変更)

福岡	正会員	田代 末信	建設	勤務: 〒879-0444 宇佐市大字石田44 大洋測量設計(株)	☎(0978)32-4234 FAX(0978)33-3826
北九州	正会員	金谷 利憲	水道	勤務: 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-23住友博多駅前第2ビル8F (株)発明協会 福岡県支部	☎(092)415-6777 FAX(092)415-7778
福岡	正会員	浅利 公博	建設	連絡: 〒811-0212 福岡市東区美和台5-23-9	☎(092)607-2872
長崎	正会員	福岡 辰義	建設	勤務: 〒852-8143 長崎市川平町392-4 (株)高松測量設計	☎(095)846-2290 FAX(095)846-2115
北九州	正会員	永吉 英昭	金属	連絡: 〒800-0233 北九州市小倉南区朽網西4-2-23	
長崎	正会員	上戸 好美	金属	連絡: 〒851-1132 長崎市小江原3-23-20	
熊本	正会員	佐藤 修治	機械	連絡: 〒818-0036 筑紫野市光が丘4-8-9	☎(092)927-0244
長崎	正会員	篠 勤	建設	連絡: 〒854-0075 諫早市馬渡町8-12-501	
福岡	正会員	米田 裕樹	建設	連絡: 〒814-0165 福岡市早良区次郎丸2-25-35-301	☎(092)871-2817
福岡	正会員	星加 博志	建設	勤務: 〒812-0053 福岡市東区箱崎5-11-1-511 星加技術士事務所	☎(092)651-9180
鹿児島	準会員	有川 幸秀	建設	勤務: 〒890-0025 鹿児島市原良町136-4 (有)有川コンサルタント	☎(099)258-2978 FAX(099)258-2978
福岡	準会員	萩 義紀	建設	連絡: 〒811-1213 筑紫郡那珂川町大字中原451-1オリーブガーデン13201号	☎(092)954-3927
福岡	正会員	瀬戸口忠臣	建設	勤務: 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-1-2 JFEエンジニアリング(株)	☎(03)3217-2561 FAX(03)3214-8431

御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	日本技術開発㈱	九州建設コンサルタント㈱
日本総合コンサルタント㈱九州支店	大和コンサル㈱	西日本コンサルタント㈱
㈱建設環境研究所	アジアエン지니어リング㈱	南武コンサルタント㈱
㈱唯設計事務所	……………〔北九州〕……………	東洋測量設計㈱
日本建設コンサルタント㈱九州支店	日本航測㈱	九建設計㈱
中央開発㈱九州支社	大村技術士事務所	日進コンサルタント㈱
㈱ダイヤコンサルタント西日本支社	㈱九州設計事務所	ダイエーコンサルタント㈱
福岡支店	九和設計㈱	……………〔宮崎〕……………
日本工営㈱福岡支店	㈱押川測量設計	㈱弓場水工コンサルタント
昭和地下工業㈱	㈱都市開発コンサルタント	㈱ロードリバーコンサルタント
第一復建㈱	㈱松尾設計	㈱ケイディエム
㈱松本組	㈱酒見設計	㈱親協
㈱エスケイエンジニアリング	㈱太平設計	南日本総合コンサルタント㈱
㈱東亜コンサルタント	冷牟田設計コンサルタント㈱	㈱宮崎産業開発
㈱福山コンサルタント	山九㈱鉄鋼事業本部鉄鋼技術部	㈱西田技術開発コンサルタント
㈱東京建設コンサルタント九州支店	㈱安川電機	(有)福島測量設計調査事務所
東亜建設技術㈱	㈱中村測建事務所	九州工営㈱
精巧エンジニアリング㈱福岡支店	環境テクノス㈱	正栄技術コンサルタント㈱
東邦地下工機㈱	……………〔佐賀〕……………	㈱東九州コンサルタント
大成ジオテック㈱	㈱精工コンサルタント	(有)日豊測量設計事務所
富洋設計㈱九州支社	新九州測量設計㈱	日測コンサルタント㈱
九州建設コンサルタント㈱福岡支店	西日本総合コンサルタント㈱	㈱水理設計
㈱サンコンサル	日本建設技術㈱	㈱ダイワコンサルタント
㈱橋梁コンサルタント福岡支社	㈱九州構造設計	㈱白浜測量設計
㈱アイ・エヌ・エー九州支社	新栄地研㈱	㈱杉田測量設計コンサルタント
㈱九州地質コンサルタント	九州技術開発㈱	南興測量設計㈱
㈱タイヨー設計	……………〔長崎〕……………	㈱アックス
日鉄鉦コンサルタント㈱九州支店	大栄開発㈱	(有)カツキ技術士事務所
㈱大建	㈱実光測量設計	㈱共同技術コンサルタント
㈱エム・ケー・コンサルタント	西日本菱重興産㈱	㈱国土開発コンサルタント
㈱エス・ピー・エンジニアリング	大洋技研㈱	㈱外山測量設計コンサルタント
新地研工業㈱	㈱親和テクノ	㈱都城技建コンサルタント
㈱カミナガ	扇精光㈱	㈱宮崎まちづくり計画
㈱構造技術センター	㈱新栄設計事務所	㈱第一テクノコンサルタンツ
平和測量設計㈱	……………〔熊本〕……………	……………〔鹿児島〕……………
㈱高崎総合コンサルタント	㈱九州開発エンジニアリング	中央テクノ㈱
西日本コトラクト㈱	アジアプランニング㈱	朝日開発コンサルタンツ㈱
西鉄シーイーコンサルタント㈱	……………〔大分〕……………	㈱久永コンサルタント
町田電気管理・技術士事務所	松本技術コンサルタント㈱	コーアツ工業㈱
日本地研㈱	協同エンジニアリング㈱	大協㈱
第一設計㈱	㈱日建コンサルタント	㈱中村測量設計
九州環境技術研究所	東亜コンサルタント㈱	㈱大紀造園設計事務所
西日本技術開発㈱	九州特殊土木㈱	㈱建設技術コンサルタンツ
㈱富士ピーエス	大洋測量設計㈱	

第34回日韓技術士会議

主催：(株)日本技術士会（会長 清野茂次）
後援：鳥取県、米子市、国土交通省中国地方整備局
日程：2004年10月25日（月）～27日（水）
25日（月）米子市集合（飛行機、JR）
（韓国参加者：結団式）
26日（火）本会議、レディース・コース、晩餐会
27日（水）研修旅行（鳥取県中西部地域）
会議場：米子コンベンションセンタービッグシップ
（米子市末広町74 TEL(0859)35-8111）

本会議：1. 登録受付 8:00～9:00
2. 式典 9:00～9:45
3. 休憩 9:45～10:00
4. 基調講演（同時通訳） 10:00～12:00
5. 昼食休憩 12:00～13:00
6. 分科会（逐次通訳） 13:00～17:00
友好親善晩餐会：
米子全日空ホテル（予定） 17:30～20:00
レディース・コース： 出発 9:00 米子着 16:00
研修旅行： 出発 9:00 米子着 16:00
参加費：登録料 5,000円、晩餐会費 8,000円（韓国
5,000円）研修旅行（昼食付） 5,000円

会誌“技術士”最近の主要目次

〔PE〕技術士12・2003

- ・森と技術者／大槻幸一郎
- ・コンピューターとリスクそして倫理／橋本義平
- ・APEC エンジニアの登録分野が拡大／JABEE 認定が技術士第一次試験合格と同時に
- ・化学物質による環境リスクへの対応／白根義治
- ・技術連携による産業活性化の取組み／村上清基
- ・惑星航空機への道／園家研一郎
- ・英国および FEANI の CPD 概要／佐々木寿朗
- ・JABEE による技術者教育の認定／福崎弘
- ・ようこそ中部支部へ／堀与志男

〔PE〕技術士1・2004

- ・年頭にあって／清野茂次
- ・注意義務と技術者倫理－知らなかったでは済まないこと－／小西義昭
- ・自然を護る－自然公園の保護と利用／佐野恵
- ・CPD 中央講座要旨 環境とその課題／福本宗樹
- ・GUEST 木村勝三郎氏／インタビュー林洋
- ・オーストラリア、ニュージーランドにおける CPD の概要／和作幹雄
- ・近畿支部の活動／稲本渡

〔PE〕技術士2・2004

- ・次世代ロボットビジョン懇談会／三浦宏文
- ・建設事業の環境コミュニケーション／鳥羽瀬孝臣
- ・第37回東京モーターショーにみる省エネルギーと環境対策／渡部厚夫
- ・温暖化防止のための選択肢／飯田喜哉
- ・「技術士 FORUM2003」報告／黒沢兵夫

- ・GUEST 清野茂次氏／インタビュー東山セツ子
- ・第6回北東3支部技術士交流研修会報告／舟越元
- ・食品技術センターの紹介／古西義正
- ・当会ホームページ「WEB名簿」の利用について

編集後記

すばらしく温厚で、しかも内には、すさまじい燃えたぎる熱情と、強くて固い意志を秘めておられる努力、実行の人。それが前九州支部長、故田中穰治先生でした。ご逝去は本当に残念でたまりません。先生に捧げる追悼の特集を組んでみました。われわれ技術士の日常のなかに、先生のご遺志が永く生き続けることを祈っております。

ところで、一次試験合格者が福岡会場で2,500人を超え昨年の7倍、一方、二次試験合格は145人、昨年の21%でした。いま技術士を取り巻く情勢が、いろいろ問題を抱えながら、大きく変わろうとしています。清野会長のご講演は、その辺りをよくお示しいただいているのではないのでしょうか。（完戸）

発行：(株)日本技術士会九州支部
九州技術士センター
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)
九州支部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4442
E-mail: engineer@joho-fukuoka.or.jp
九州支部ホームページ URL:
http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer
センター： ☎ / FAX(092)432-4443
印刷：(株)川島弘文社